

非常通報装置

White Lock 21

取扱説明書



製品をお使いになる前に、本書をお読みください

はじめに

この度は、「WhiteLock21」をご利用頂きまして、誠にありがとうございます。

本製品は、外部からの入力信号に応じて一般電話回線や携帯電話機から携帯電話機、PHS電話機、一般電話機などに音声や携帯メールで自動通報する装置です。

製品は一般回線用（WhiteLock21A）と、携帯電話機用（WhiteLock21D）の2つのタイプがあります。

この説明書は両タイプ兼用で作成されておりますので、必要に応じて53ページからの「タイプ別に異なる部分」の説明をご覧ください。

本製品は、ご購入直後の状態ではそのまま使用することができません。

同梱しているソフトウェアをパソコンにインストールし、設定を行う必要があります。

また、音声通報する場合は録音も行って下さい。

設定後は本書の説明にしたがって動作確認をしてからお使いください。

本書では、一般回線用（WhiteLock21A）を「WL21A」、携帯電話機用（WhiteLock21D）を「WL21D」、タイプに依存しない場合は「WL21」と記述しているところがあります。

ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みの上、内容を理解してからお使いください。

この説明書はお読みになった後も、本製品のそばなどいつも手元においてお使いください。

製品バージョンの確認

製品タイプの区別は、本体の蓋を開けて内部にあるCPUのラベルにてご確認ください。

製品のバージョンアップは有償にて承っておりますので、弊社までお問い合わせ下さいませ。

「White Lock 21D」に接続できないデジタル携帯電話機の機種について

＊2002年1月現在、利用できない携帯電話機はSONY、京セラ製の一部の機種です。

また、プリペイド式携帯電話機ではAU606Gのみに対応していますのでご注意ください。

＊携帯電話機に付属しているACアダプター(バッテリーではありません)の出力電圧がDC 5.0V～5.7V以

外の表記があるものは、接続した「WL21D」から正しく充電できない場合があります。

＊本書に記載されている内容は、予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

特 徴

- ・用途に応じた2タイプ
携帯電話機から通報する「WL21D」と一般回線から通報する「WL21A」があります。
2つのタイプは、使用する回線の種類が異なるだけで、その他の仕様はほとんど同じです。
「WL21A」は、PBX交換機の内線間の通報や外線へ接続するときの発信機能を装備しています。
- ・外部入力毎にI C録音された内容で自動通報
圧縮無し直接録音方式で音質良好。録音は何度でも可能、録音内容は半永久的に保持。
- ・最大6ヵ所までの通報が可能
「WL21D」、「WL21A」とも最大6ヵ所までの通報先の指定が可能です。
- ・通報終了の条件も指定可能
「全ヵ所通報」または、「通報先のどれか1ヵ所に通報」から選択できます。
- ・携帯メールへの通報も可能
英数カナ漢字文字で通報。全角で50文字、半角で100文字のメッセージを送信できます。
- ・テレコンも可能
「WL21A」に一般回線や携帯電話で、「WL21D」には一般回線で電話をかけ、プッシュボタンで動作をコントロールできます。現在の入力信号の状態、停電状態を音声で確認できます。
- ・「WL21D」では携帯電話機への繰り返し自動充電機能付き
長期にわたってメンテナンスフリーで使えます。
- ・停電保証3時間以上を確保、バックアップ電池付き
O O 6 P型ニッケル水素充電電池を標準添付。
- ・停電・復電通報を標準装備
外部から停電信号を接続したりする必要がありません。設定ソフトにチェックを入れるだけで有効となります。
- ・小型で制御盤内への組込容易
サイズはたばこ3個分とちょっと、軽くてコンパクトです。
- ・設定用パソコンソフト（Windows 95、98(SE)、Me、NT4.0、2000、XP用）
ワープロソフトなどと比べてインストールも設定もすごく簡単です。
製品には、通信ケーブルも標準添付しています。
- ・入力信号の選択が可能
入力がONになったときに通報するか、OFFになったときに通報するか入力毎に個別に設定が可能。設定ソフトにチェックを入れるだけで切り替えできます。
- ・低価格
他社の半分以下の超低価格。もう通報装置にお金をかける必要はありません。

目 次

ご使用の前に.....	6
略称、商標について.....	6
制限事項.....	6
安全にお使いいただくために必ずお守りください.....	7
設置場所について.....	7
お願い.....	7
パッケージ内容の確認.....	8
各部の名称とその機能.....	9
本体外観.....	9
呼出の種類と通話料金.....	10
通報の種類.....	10
音声通報.....	10
携帯メール.....	10
タダ電通報.....	10
通報の手順.....	10
通常の呼出.....	12
全解除呼出設定.....	12
個別解除呼出.....	12
停電時発信.....	13
1回の通報にかかる通話料金.....	13
複数の通報先を設定するとき.....	14
通報を終了する条件.....	14
通報を終了するまでに発生したイベント.....	15
テレコン.....	16
入力信号の状態を確認するとき.....	16
入力信号の状態を音声で聞く.....	16
パスワードを間違えた場合.....	16
出力信号を ON、OFF するとき.....	17
コマンド入力.....	17
パスワードを間違えた場合.....	17
コマンドを間違えた場合.....	18
注意事項.....	18
動作設定.....	19
録音再生.....	19
設定に使用するパソコン.....	21
設定ソフトのインストール.....	22
設定ソフトウェアの起動.....	24
通報先の設定.....	26
通報先の種別.....	26
通報先の電話番号.....	27
外線発信番号(WL21A のみ).....	28
携帯メールセンター.....	28

携帯メールセンターの編集.....	30
全体の設定.....	32
通報を終了する条件.....	32
停電や復電時に通報する.....	33
解除呼出の方法.....	33
入力信号の接点仕様.....	33
テレコン.....	34
送信メッセージの編集.....	35
文字の種類.....	35
識別コード.....	36
入力信号1～8.....	37
全解除.....	37
停電・復電.....	37
文字数.....	37
表示サンプル.....	37
テスト文字列設定.....	38
通信ポートの確認.....	38
通信ポートを自動的に検出する.....	38
通信ポート指定.....	39
設定内容の転送.....	39
設定内容の保存と読み込み.....	41
新規作成.....	42
設定ファイルを開く.....	42
上書き保存.....	42
名前を付けて保存.....	42
本体から設定を読み込む.....	42
Aタイプの設定・Dタイプの設定.....	42
終了.....	42
以前に編集したファイル.....	43
動作確認.....	43
設置方法.....	45
設置場所を決める.....	45
接続工事.....	45
本体側の電話回線.....	45
入力端子接続.....	45
ACアダプタの接続.....	46
運転の開始.....	47
通報の受信.....	48
受信装置.....	48
音声通報を電話機で受信したとき.....	48
携帯メールを通報先に指定した場合.....	48
識別コード部の表示について.....	48
メッセージ部の表示について.....	49
携帯メールを通報先に指定した場合のご注意.....	49
動作モニター.....	50
表示モニターランプ.....	50

起動時.....	50
設定スイッチ(WRITE)ON で起動したとき.....	50
通報の状態から見たとき.....	50
ランプの点灯状態から見たとき.....	51
停電保証について.....	52
内蔵電池.....	52
タイプ別に異なる部分.....	53
携帯タイプ「WL21D」.....	53
携帯電話機の設定.....	53
携帯電話機の接続.....	53
携帯電話機への充電.....	53
携帯電話機の充電電圧の設定.....	54
使用上の注意事項「WL21D」.....	54
一般回線タイプ「WL21A」.....	55
他の電話機やFAXなどの回線と併用するとき.....	55
Q & A	56
携帯タイプ「WL21D」.....	56
一般回線タイプ「WL21A」.....	57
タイプ共通.....	57
WhiteLock100New との違い.....	59
こんなときには.....	60
設定ソフトウェアのアンインストール.....	60
本体を清掃するときは.....	61
仕様	62
「White Lock 21」本体.....	62
設定ソフトウェア.....	62
インターフェイス仕様.....	63
外形図.....	64
付録	66
文字コード.....	66

ご使用の前に

制限事項

- 本製品は日本国内での使用を目的に設計されています。国外でのご利用は出来ません。
- 本体と接続可能な電話機（回線）は下記の通りです。

「WL21A」の場合

NTT仕様で2線式のプッシュ回線またはダイヤル回線です。ISDN回線の場合は、ターミナルアダプタ(TA)のアナログポートに接続できます。

ダイヤル回線に接続する場合「携帯メール」は使用できません。

デジタル式携帯電話機、PHS、cdmaOne、ビジネスホン、ホームテレホン、4線式電話機、デジタルPBXに接続することは出来ません。

NTT仕様のアナログPBX交換機を介して接続する場合に、外線発信を行う設定にすると、指定番号の発信を行ってから約1秒待ってダイヤルを開始します。外線発信番号と待機時間は設定で変更できます。

「WL21D」の場合

デジタル式携帯電話機のみに接続できます。デジタル携帯電話機の種類によっては、正常に動作しない機種もありますのでご注意ください。

2002年3月現在、利用できない携帯電話機はSONY、京セラ製の一部の機種です。

また、プリペイド式携帯電話機ではAU606Gのみに対応していますのでご注意ください。

携帯電話機に付属しているACアダプターの出力電圧が、DC 5.0V～5.7V以外の表記があるものは、接続した「WL21D」から正しく充電できない場合があります。

テレコンは一般回線電話から電話をかけた場合のみ可能です。携帯電話からは使用できません。

本体の操作について

- 電源スイッチをOFFにした直後にONにすると内部CPUが正しく起動しないことがあります。電源スイッチをOFFにして、再びONにする際にはOFFの後3秒以上待ってONにしてください。
- 電源プラグを差し込む場合は本体の電源スイッチをOFFにした状態で差し込んでください。
- 設定ソフトで設定を行った後は実際に発信させて受信できるか確認して下さい。
- 接点毎に異なる通報先の設定はできません。
- 出荷状態では設定がしてありません。この状態では入力信号が「有り」になっても通報しません。
- 再呼出機能については、同一の通報先を複数設定することにより対応しています。

添付品の充電池について

- 出荷時には完全に充電されておりませんのでご注意ください。商用電源（ACアダプタ）を接続して、24時間経過すれば満充電となります。

通報先の電話番号は緊急メッセージの通報に限りです。

安全にお使いいただくために必ずお守りください

本商品は以下の注意事項をよくお読みいただき正しくお使いください。
間違った使い方をされますと、感電、火災や機器の故障が発生するおそれがあります。
安全にお使いいただくために必ずお守りください。

- ・ 本商品を人命に直接関わる医療機器のような、極めて高い信頼性や安全性を必要とされる設備には接続しないでください。また、携帯電話機を利用する際には電波の影響を受けやすい機器などの近くでのご使用はお止めください。
- ・ 本商品は侵入等の防止装置ではありません。本商品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通話の機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、弊社は一切その責任をおいかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・ 本体もしくはそれに接続されている部分から異臭がしたり、過熱や煙が出る場合は、ただちにご使用を止め、電源を切り、取り外してお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。
- ・ 本体、及び付属機器を分解・改造しないでください。
- ・ 本体は、屋内での使用を前提に設計されています。屋外でご使用の際には使用条件定格内になるように工夫してご使用ください。
- ・ 本体内部に異物等が入らないようにご注意ください。
- ・ ACアダプタは必ず付属のものをご使用ください。他の製品の流用は絶対にお止め下さい。

設置場所について

本体を次のような場所に設置しないでください。動作が不安定になったり、おもわぬ火災や故障の原因となる場合があります。

- ・ 急激な温度変化や湿度変化があったり、結露するような場所。
- ・ 直射日光があたる場所。
- ・ 水気、火気のある場所。
- ・ 粉塵等のほこりの多い場所。
- ・ 不安定な場所や振動がある場所。
- ・ 強い磁気や電磁波を発生する機器の近く。
- ・ 腐食性ガスのある場所。
- ・ 気化した薬品や化学反応をおこす様な場所、空気中に塩分が含まれている場所。

お願い

本体に接続する携帯電話機の設定などは、携帯電話機に付属の説明書をお読みください。
本体やケーブル等は、小児の手の届かない場所に保管、設置してください。
長期間にわたって無人で使用する場合は、必ず定期的に保守/点検を行ってください。

パッケージ内容の確認

製品をご使用になる前に、パッケージに以下のものが全て揃っているか確認してください。
不足しているものがございましたら、お買い上げの販売店、または弊社までご連絡ください。

名称		WL21A	WL21D
本体		☐	☐
通信ケーブル (1.5m)		☐	☐
ACアダプター		☐	☐
イヤホンマイク		☐	☐
接点出力ケーブル		☐	☐
モジュラーケーブル (3m)		☐	—
携帯ケーブル		—	☐
バックアップ電池 (本体に内蔵済み)		☐	☐
保証書	—	☐	☐

- * 上図は、実際のものと多少形状等が異なる場合がありますのでご了承ください。
- * 携帯電話機は本製品に付属していません。
取扱説明書、設定用ソフトウェアは製品に付属のCDからインストールしてお使い下さい。

各部の名称とその機能

本体外観

64ページの「外形図」を参照してください。

呼出の種類と通話料金

通報の種類

通報には「音声通報」と「携帯メール通報」と「タダ電通報」の3種類があります。

音声通報

音声通報は、一般電話、携帯電話、PHS等へ録音した音声で通報します。

携帯メール

携帯メールは、設定ソフトで設定した文字メッセージを携帯電話に送信します。ドコモのショートメール、J-フォンのスカイメール、AUのCメールなど設定を変えることでどの携帯メールへも送信できます。

タダ電通報

タダ電通報は、一般電話、携帯電話、PHSの呼出音を鳴らして電話を切ります。呼出音を鳴らすだけなので通話料金はかかりません。使い方としては、通報先の着信履歴に記録されるのでそれを見て、テレコンで確認します。

通報先が電話にでてしまっても「WL21」はすぐ電話を切ります。この場合通話料金がかかってしまいます。

通報の手順

ここでは、「WL21」がどのように仕事をしているか、手順を説明します。

- 入力信号 ON
- 受話器を取る
- 「LP1 (黄色)」点灯
- ダイヤルを開始する
- 相手のベルが鳴るまで待つ (制限時間最大15秒)
 - △制限時間になった (待ったけどベルが鳴らない)
 - 「LP1 (黄色)」、「LP2 (赤色)」を3秒間高速点滅 → <リダイヤル>へ
 - △話し中 → 「LP1 (黄色)」 3秒間高速点滅 → <リダイヤル>へ
- 相手のベルが鳴った。(ここからは、設定された通報先により異なります)

<携帯メールの場合>

- 「こちらは…メールセンターです」のアナウンスが始まるまで待つ（15秒）
- 通報先の電話番号を送信する
- 「送信するメッセージを入力してください」のアナウンスを待つ（10秒）
- メッセージを送る
- 「電話を切ってお待ちください」のアナウンスが始まるまで待つ（15秒）
- 受話器を下ろす
- 下記の情報が得られるまで待つ（制限時間最大120秒）
 - △通話が正常に完了した
 - 「LP1（黄色）」消灯→LP2（赤色）」高速点滅6秒間→<通報終了確認>へ
 - △制限時間オーバー（通話ができなかった）
 - 「LP2（赤色）」高速点滅3秒間→<リダイヤル>へ

※携帯メールセンターの種類によって手順や時間、アナウンスは異なります。

<音声通報の場合>

- 最大30秒間相手が電話に出るまでベルを鳴らし続ける
- 相手が電話を取り、内容を聞いてから受話器を下ろしたか調べる
 - △相手が電話を切った
 - 「LP1（黄色）」消灯→「LP2（赤色）」高速点滅6秒間→<通報終了確認>へ
 - △制限時間オーバー（最大通話時間になった）
 - ベルを鳴らし始めてから120秒経過するか、相手が受話器を上げても120秒以内に受話器を下ろさないと電話を切る
 - <リダイヤル> へ。

<タダ電通報の場合>

- 電話を切ります。

<リダイヤル>

- 受話器を下ろす
- 「LP1（黄色）」消灯
- 「LP1（黄色）」低速点滅しながら再ダイヤルまで待つ（10秒）
- 通報未完了が2カ所以上の場合は、次の通報先の電話番号をセットして<受話器を取る> へ
- 通報未完了が1カ所の場合は、通報先はそのまま<受話器を取る> へ

<通報終了確認>

- 通報終了条件（詳細説明は14ページ）により、通報を完了していない通報先がある場合は、その通報先の電話番号をセットして<ダイヤルを開始する> へ
- 通報をする通報先がない場合は、通報終了

通常の呼出

入力信号が「有り」になったときに通報を行います。

携帯メールの場合は、メッセージの後へ「ON」や「OFF」が付加されません。

1. 入力信号 1 「有り」…通報する
2. 入力信号 2 「有り」…通報する
3. 入力信号 1 「無し」…通報しない（個別解除呼出の設定がしていないとき）
4. 入力信号 1 「有り」…通報する
5. 入力信号 1 「無し」…通報しない（個別解除呼出の設定がしていないとき）
6. 入力信号 2 「無し」…通報しない（全解除呼出の設定がしていないとき）

全解除呼出設定

全ての入力信号が「無し」になったときに解除通報を行います。

既に通報済みの入力、他の入力が「有り」のときには無視され、変化しても通報しません。全入力が「無し」になった後に「有り」になると通報します。

この機能は、「個別解除呼出」を選択している場合は設定できません。

携帯メールの場合は、メッセージの後へ「ON」や「OFF」が付加されません。

1. 入力信号 1 「有り」…通報する
2. 入力信号 2 「有り」…通報する
3. 入力信号 1 「無し」…通報しない（個別解除呼出の設定がしていないとき）
4. 入力信号 1 「有り」…通報しない（既に通報済みであり、入力2が「有り」であるため）
5. 入力信号 1 「無し」…通報しない（個別解除呼出の設定がしていないとき）
6. 入力信号 2 「無し」…通報する（全解除呼出の設定がしてあるから）

個別解除呼出

各入力信号が「無し」になる毎に解除呼出を行います。

携帯メールのメッセージの後へそれぞれ「ON」や「OFF」が自動的に付加されます。

この機能は、「全解除呼出設定」を選択している場合は設定できません。

この設定をすることで、センサーなどの信号出力が誤報検知を出したとき、すぐに復旧すれば解除呼出によって誤報の確認が出来ることもあります。

個別解除呼出に設定すると、入力変化の度に通報しますから通報頻度が高い場合は通話料が多くなります。入力信号が頻繁に変わるところで設定する場合は注意が必要です。

1. 入力信号 1 「有り」…通報する
2. 入力信号 2 「有り」…通報する
3. 入力信号 1 「無し」…通報する（個別解除呼出の設定がしてあるから）
4. 入力信号 1 「有り」…通報する（個別解除呼出の設定がしてあるから）
5. 入力信号 1 「無し」…通報する（個別解除呼出の設定がしてあるから）
6. 入力信号 2 「無し」…通報する（個別解除呼出の設定がしてあるから）

停電時発信

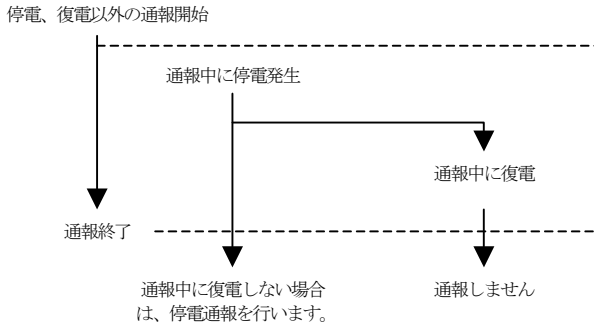
停電や復電があったときに通報します。

「停電や復電時に通報する」を選択した場合は、停電時、復電時ともに通報します。

携帯メールに通報するときは、停電時のメッセージ、復電時のメッセージとなります。

停電通報は「全解除呼出」や「個別解除呼出」とは関係なく、別の呼出として通報します。

また、停電、復電以外を通報している最中に、停電をした後に復電したときは停電や復電の通報は行いません。上記通報を終了してからも、復電しないときは停電通報を行います。



1回の通報にかかる通話料金

携帯メールで通報するときは、文字数により通話時間が変わります。全角1文字送信するのに2秒、半角1文字送信するのに1秒かかります。10文字の全角文字メッセージを送信する場合は、メールセンターへ電話をかけたり、切ったりする時間を含めて40秒程度です。

通話料金は一般回線からかけた場合も携帯電話からかけた場合でも10円から30円程度です。6秒10円のプリペイド携帯電話からなら70円になります。

音声通報の場合は、受信側が受話器を上げている時間によって通話料金が異なります。但し、通報1回当たり最大120秒を過ぎると自動的に電話を切ります。

＊ この場合、通報が正常に終わっていないものと判断し、リダイヤルします。

タダ電通報の場合は、呼出音を鳴らすだけなので通話料はかかりません。

複数の通報先を設定するとき

通報を終了する条件

本装置は、通報を開始してから以下の条件により通報を終了します。ご利用になる環境に合わせてお選び下さい。(選択は、設定ソフトウェアで行います)

1. 「全ての通報先に通報できたら終了」を選択したとき

設定した全ての通報先への通報が終了するまで、ダイヤルを続けます。

全ての担当者に異常を知らせる必要がある時や、携帯メールの文字化けを考慮した再呼出にご利用下さい。

通報先がいつも話し中や電話が繋がらない場合は、繰り返しダイヤルします。この間、新たに発生した通報は行いませんのでご注意下さい。

例：通報先を5カ所に設定したとき

通報先の受信装置の種類

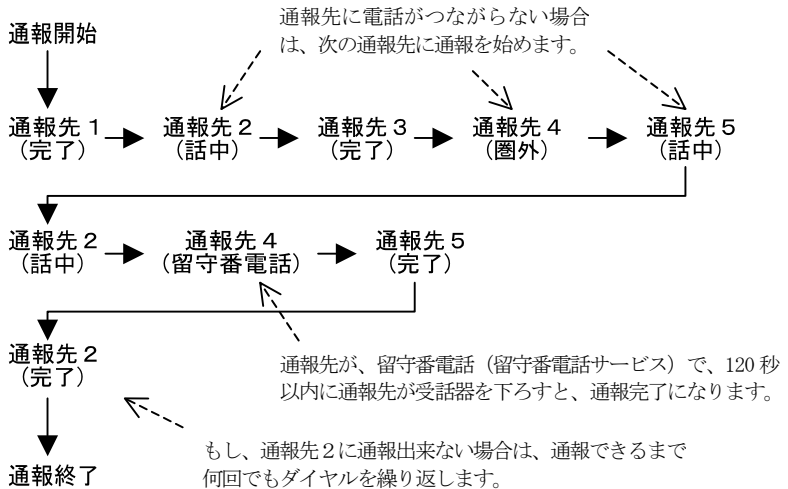
通報先1：電話機

通報先2：電話機

通報先3：携帯メール

通報先4：携帯電話機

通報先5：電話機



2. 「通報先のどれか1カ所でも通報できたら終了」を選択したとき

設定した通報先の1カ所でも通報できると通報を終了します。

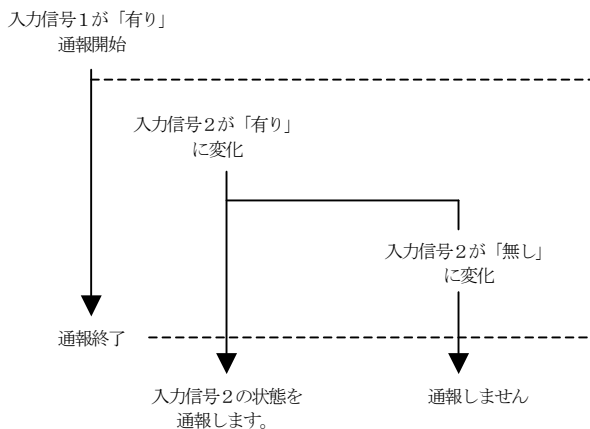
但し、通報先が留守番電話(留守番電話サービスも含む)など自動的に受話器を上げるものは、120秒以内に通話が終了した時点で通報完了としますのでご注意下さい。

また、通報先が携帯メールの場合も同様に通報完了とみなしますのでご注意下さい。

通報を終了するまでに発生したイベント

通報中に新たに発生したイベント(通報を行う条件が整った状態)は、先の通報が終了しない限り通報できません。

例：入力信号1が「有り」になった時の動作例



テレコン

入力信号の状態を確認するとき

本装置を接続している一般電話回線や携帯電話に電話をかけて、現在の入力信号の状態を音声で確認することができます。

パスワードを「1234」に設定した場合の手順は次のようになります。

入力信号の状態を音声で聞く

- ① 「WL21」に電話をかけます。
- ② 「WL21」が電話を取ります。
- ③ パスワード入力を促す録音した音声が続り返し聞こえます。
音声チャンネル 12 「パスワードをダイヤルボタンで入力し、最後に#を押してください」
- ④ パスワード4桁「1234」をダイヤルし「#」を押します。
- ⑤ パスワードが合っていれば入力信号の状態が音声で繰り返し聞こえます。
例1：入力1、入力2がONの場合
音声チャンネル0 「こちらは××です」
音声チャンネル1 「入力1がON です」
音声チャンネル2 「入力2がON です」
この3つの音声が繰り返し聞こえます。
例2：停電通報がONで停電状態の場合
音声チャンネル0 「こちらは××です」
音声チャンネル10 「停電が発生しました」
例3：入力が全てOFFの場合
音声チャンネル0 「こちらは××です」
音声チャンネル9 「全ての警報は解除しました」
この2つの音声が繰り返し聞こえます。
- ⑥ 「#」を押すと③のパスワード入力に戻ります。

「WL21」からは電話を切りません。内容を聞いたら電話を切ってください。

音声再生される入力信号の状態はパスワードを受け付けた瞬間の状態です。⑤の状態メッセージを聞き続け、その間に入力信号が変わってもメッセージは変わりません。適当なときに「#」を押してパスワード入力からやり直してください。パスワードを受け付けた瞬間の状態が新たに取得され、最新の状態が確認できます。

パスワードを間違えた場合

- ① 「WL21」に電話をかけます。
- ② 「WL21」が電話を取ります。
- ③ パスワード入力を促す録音した音声が続り返し聞こえます。
音声チャンネル 12 「パスワードをダイヤルボタンで入力し、最後に#を押してください」
- ④ 違ったパスワード4桁「9999」をダイヤルし「#」を押す。
- ⑤ パスワードが違っていたので再入力を促す音声が繰り返し聞こえます。
音声チャンネル 13 「一致しません。もう一度」
音声チャンネル 12 「パスワードをダイヤルボタンで入力し、最後に#を押してください」
この2つの音声が繰り返し聞こえます。
- ⑥ 違ったパスワード4桁「8888」をダイヤルし「#」を押す。

- ⑦ パスワードが違っていたので再入力を促す音声が続く聞こえます。
 音声チャンネル 13 「一致しません。もう一度」
 音声チャンネル 12 「パスワードをダイヤルボタンで入力し、最後に#を押してください」
 この2つの音声が繰り返しく聞こえます。
- ⑧ 違ったパスワード4桁「7777」をダイヤルし「#」を押す。
- ⑨ パスワードを3回間違えたので「WL21」は電話を切ります。

出力信号を ON、OFF するとき

本装置を接続している一般電話回線や携帯電話に電話をかけて、4点ある出力信号をそれぞれ ON、OFF する操作ができます。

「入力信号の状態を確認」と違う点はパスワードを入力した後で「*#」を入力することです。パスワードを「1234」、出力信号1のON コマンドを「0001」に設定した場合の手順は次のようになります。

コマンド入力

- ① 「WL21」に電話をかけます。
- ② 「WL21」が電話をとります。
- ③ パスワード入力を促す録音した音声が繰り返しく聞こえます。
 音声チャンネル 12 「パスワードをダイヤルボタンで入力し最後に#を押してください」
- ④ パスワード4桁「1234」をダイヤルし「*#」を押します。
- ⑤ コマンド入力を促す録音した音声が繰り返しく聞こえます。
 音声チャンネル 14 「コマンドを入力し最後に#を押してください」
- ⑥ コマンド4桁「0001」をダイヤルし「#」を押します。
- ⑦ コマンドが合っていれば対応する出力信号1をONにしコマンドを受け付けた音声が繰り返しく聞こえます。
 音声チャンネル 15 「受け付けました」
- ⑧ 「#」を押すと3のパスワード入力に戻ります。

パスワードを間違えた場合

- ① 「WL21」に電話をかけます。
- ② 「WL21」が電話をとります。
- ③ パスワード入力を促す録音した音声が繰り返しく聞こえます。
 音声チャンネル 12 「パスワードをダイヤルボタンで入力し最後に#を押してください」
- ④ 違ったパスワード4桁「9999」をダイヤルし「*#」を押す。
- ⑤ パスワードが違っていたので再入力を促す音声が続く聞こえます。
 音声チャンネル 13 「一致しません。もう一度」
 音声チャンネル 12 「パスワードをダイヤルボタンで入力し、最後に#を押してください」
 この2つの音声が繰り返しく聞こえます。
- ⑥ 違ったパスワード4桁「8888」をダイヤルし「*#」を押す。
- ⑦ パスワードが違っていたので再入力を促す音声が続く聞こえます。
 音声チャンネル 13 「一致しません。もう一度」
 音声チャンネル 12 「パスワードをダイヤルボタンで入力し、最後に#を押してください」
 この2つの音声が繰り返しく聞こえます。
- ⑧ 違ったパスワード4桁「7777」をダイヤルし「*#」を押す。
- ⑨ パスワードを3回間違えたので「WL21」は電話を切ります。

コマンドを間違えた場合

- ① 「WL21」に電話をかけます。
- ② 「WL21」が電話をとります。
- ③ パスワード入力を促す録音した音声が続く聞こえます。
音声チャンネル 12「パスワードをダイヤルボタンで入力し最後に#を押してください」
- ④ パスワード4桁「1234」をダイヤルし「*#」を押します。
- ⑤ コマンド入力を促す録音した音声が続く聞こえます。
音声チャンネル 14「コマンドを入力し最後に#を押してください」
- ⑥ コマンド4桁「9999」をダイヤルし「#」を押します。
- ⑦ コマンドが違っていた場合
音声チャンネル 13「一致しません。もう一度」
音声チャンネル 14「コマンドを入力し最後に#を押してください」
この2つの音声が続く聞こえます。
- ⑧ コマンドが合うまで⑥のコマンド入力に戻ります。
パスワードのときと違いコマンドを何回間違えても「WL21」は電話を切りません。

注意事項

- 「WL21D」に携帯電話で電話をかけてテレコンを行うことはできません。「WL21D」には一般電話からテレコンを行ってください。「WL21A」なら一般電話からでも携帯電話からでもテレコンは可能です。
- 「WL21」が通報中ならテレコンはできません。通報箇所が6箇所全てに行うよう設定されていれば全ての通報が終了するまで待ってください。
- 「WL21」に電話をかけ、「WL21」が電話を取っても音声が続かない場合があります。そのときは「WL21」が通報をしようとしていた可能性があります。一度電話を切ってしばらくしてからかけ直してください。
- テレコン中に入力信号が ON になり OFF になったもの、または OFF になり ON になったものはテレコン終了後に通報はされません。

動作設定

本装置は、ご利用の前に受信装置の種類や電話番号、メッセージなどを登録しておく必要があります。設定は、付属している「設定ソフトウェア(Windows 95/98(SE)/Me/NT4.0/2000 用)」で行います。ソフトウェアは、一般回線タイプ「WL21A」及び携帯電話機タイプ「WL21D」共通です。ご自分で設定ができないときは、パソコンを持っている方をお願いするか、弊社に設定をご依頼ください。また、御購入後の変更依頼も承ります。

音声通報を使用する場合は、チャンネル0～11 を録音してください。

テレコンを使用する場合は、チャンネル12～15 を録音してください。

どちらも使用しない場合は、21ページの「設定に使用するパソコン」からご覧下さい。

録音再生

録音再生の概要

音声録音は16の録音チャンネルが用意されています。各チャンネルを録音し、通報時はこれらを組み合わせて再生されます。

各チャンネルの録音時間は最大10秒となります。

録音する内容

- | | |
|------------|---|
| 録音チャンネル0 | 設置した場所や機械装置などの名前が解るような内容を録音します。
例:「こちらは××です」、「◎◎からのお知らせです」 |
| 録音チャンネル1～8 | 各入力信号1～8に対応した通報内容を録音します。
例:「〇〇の警報が発生しました」、「〇〇の故障が発生しました」、「〇〇がオンになりました」、「〇〇の窓から侵入者がありました」 |
| 録音チャンネル9 | 全入力解除したときに通報する内容を録音します。
例:「全ての警報は解除しました」、「全ての故障は解除しました」、「全ての信号はオフになりました」 |
| 録音チャンネル10 | 停電が発生した際に通報する内容を録音します。
例:「停電が発生しました」、「外部電源装置が故障しました」 |
| 録音チャンネル11 | 復電したときに通報する内容を録音します。
例:「復電しました」、「外部電源装置が復帰しました」 |
| 録音チャンネル12 | パスワード入力を促す内容を録音します。
例:「パスワードをダイヤルボタンで入力し、最後に#を押してください」 |
| 録音チャンネル13 | パスワードが一致しなかった時の内容を録音します。このメッセージの後にチャンネル12かチャンネル14のメッセージが流れます。
例:「一致しません。もう一度」 |
| 録音チャンネル14 | コマンド入力を促す内容を録音します。
例:「コマンドを入力し、最後に#を押してください」 |
| 録音チャンネル15 | コマンドを受け付けた内容を録音します。
例:「受け付けました」 |

通報例

入力信号が「有り」になったとき

「こちらは××です。〇〇の警報が発生しました」、「こちらは××です。〇〇の故障が発生しました」、「こちらは××です。〇〇がオンになりました」、「こちらは××です。〇〇の窓から侵入者がありました」

全入力が「無し」になったとき

「こちらは××です。全ての警報は解除しました」、「こちらは××です。全ての故障は解除しました」、「こちらは××です。全ての信号はオフになりました」

動作設定停電が発生したとき

「こちらは××です。停電が発生しました」、「こちらは××です。外部電源装置が故障しました」

復電したとき

「こちらは××です。復電しました」、「こちらは××です。外部電源装置が復帰しました」
録音及び再生の確認をするときは、「設定スイッチ(WRITE)」を ON にしたあとで、「電源スイッチ(POWER)」を ON にします。

録音再生の操作方法

録音は、付属のイヤホンマイクで行います。

録音再生モードへの切り替えは、「設定スイッチ(WRITE)」を ON にしてから「電源スイッチ(POWER)」を ON にします。既に電源スイッチが ON のときは一度 OFF にして、設定スイッチを ON にしてから電源を ON にします。

録音再生をするとき、内蔵電池に十分充電されていれば、電源プラグを抜いていても可能です。

1. 最初に録音するチャンネルを「チャンネル切り替えスイッチ」で選択します。
2. 次に録音ボタンと停止ボタンを同時に押します。録音状態になると、録音ランプ（黄色）が点灯します。
3. イヤホンマイクに録音する内容をお話してください。録音ランプ（黄色）が点灯してから10秒が経過すると自動的にランプが消えて録音が終了します。
4. 任意の位置までで、録音を停止させたいときは停止ボタンを押します。
5. 録音が終わったら再生ボタンを押します。イヤホンから再生されます。途中で録音を停止させた場合はその位置まで再生されます。

慣れてくれば無音の状態が少なくなるように録音できるようになります。音量調整ボリュームはありませんので、録音する音量で調整してください。各チャンネルの説明を読んで適当な内容を録音再生して確認してください。

「WL21D」で再生を行うときは、携帯電話プラグを携帯電話機から取り外してください。取り外さない場合は、再生音量が小さくなったりひずんで聞こえたりします。音声通報を携帯電話で受けた場合、電波の状況によっては音質が悪いことがあります。

録音するときに大きな声で録音したときは再生音がひずむ場合がありますが、通報された電話機で聞くときはひずむことはありません。

音量の調整は出来ませんので実際に通報を電話機で聞いてご確認ください。

WRITE スイッチを ON にして POWER を ON にしたときのクリック音について

音声録音再生やパソコンによる設定を行う際に POWER を ON にしたとき、クリック音や短いトーンが聞こえることがあります。異常ではありません。

*** 録音再生が終了したら、必ず「チャンネル切り替えスイッチ」を 0 にして下さい。**

設定に使用するパソコン

設定を行う場合、以下の仕様のパソコンが必要です。

- ・ CPU 6 6 M H z i 4 8 6 D X 以上 (Pentium 以上を推奨)
- ・ O S 日本語 Windows 95、Windows 98 (SE)、Windows Me、
Windows NT 4.0 (SP5 以降)、Windows 2000 (SP1 以降)
Windows XP
- ・ ハードディスク インストールに 5 M B y t e 程度の空きエリアが必要
- ・ メモリ 実装メモリ 1 6 M B y t e 以上
- ・ モニター 解像度 8 0 0 × 6 0 0 ドット以上が表示可能なカラーディスプレイ
- ・ ビデオカード 8 0 0 × 6 0 0 ドット以上で、2 5 6 色以上が表示可能なもの
- ・ C D - R O M ドライブ (C D ディスクからのインストール時に必要)
- ・ コミュニケーションポート COM ポート D-sub 9 ピンが必要 (設定内容を転送する時に使用)

* 既にインストール済みのソフトウェアやハードウェアの設定、その他の状況により、設定ソフトが正常に動作しない場合もあります。

* パソコンのコネクタが D-sub 25 ピンの場合は、D-sub 25 ピン → 9 ピンの変換コネクタを別途ご準備下さい。

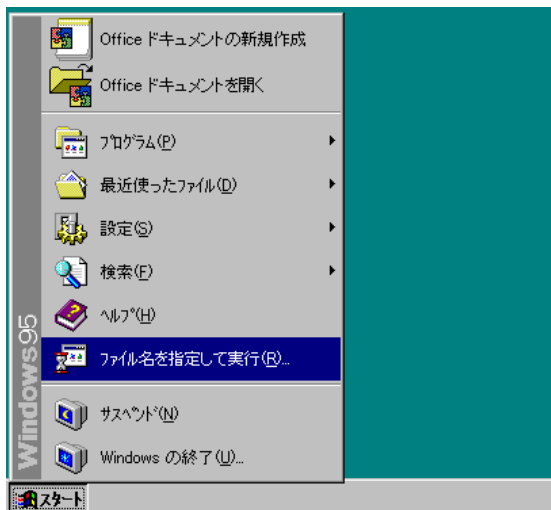
* パソコンのコネクタに COM ポートがなく USB ポートしかない場合、USB ポート → D-sub 9 ピン変換ケーブルを別途ご準備下さい。

* 付属している通信ケーブルを本装置と接続するときプラグの固定ネジは絞める必要はありません。また、差し込み時は数ミリしかプラグが入りませんので抜けない様にご注意下さい。

設定ソフトのインストール

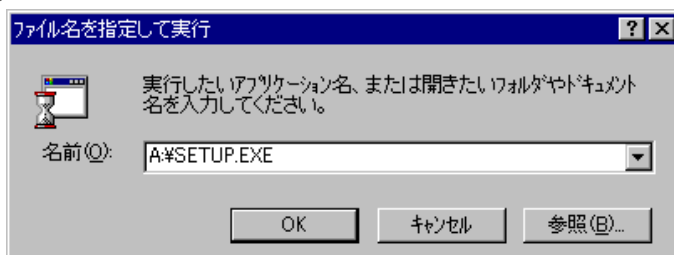
ソフトウェアをインストールする前に、実行中のアプリケーションを全て終了して下さい。
 付属のCDからセットアップファイルをインストールし、ファイルの中から、Setup. exe
 をダブルクリックして実行して次ページの説明をご覧ください。

フロッピーディスクからインストールする場合は、**White Lock 21 設定ソフト**（インストールフロッピーディスク）1/2 をパソコンのフロッピーディスクドライブに挿入して、[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行(R)]を選択します。



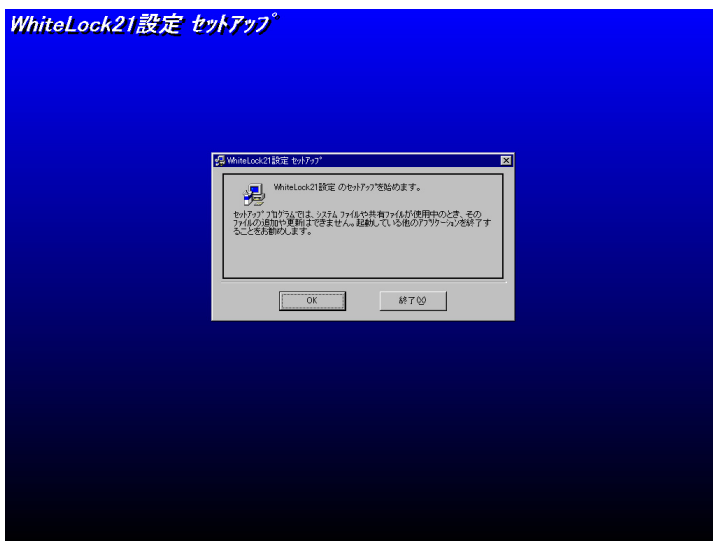
「ファイル名を指定して実行(R)」のウィンドウが表示されたら、名前(Q)の右の入力ボックスに
 A:¥SETUP.EXE と入力して、[OK] ボタンをクリックします。（フロッピーディスクドライブがA : の
 場合）

* PC-9800 シリーズなどで、フロッピーディスクがCドライブの場合は、「C:¥SETUP.EXE」と入力し
 して下さい。



[OK] ボタンをクリックしてからしばらくすると次の画面が表示されます。

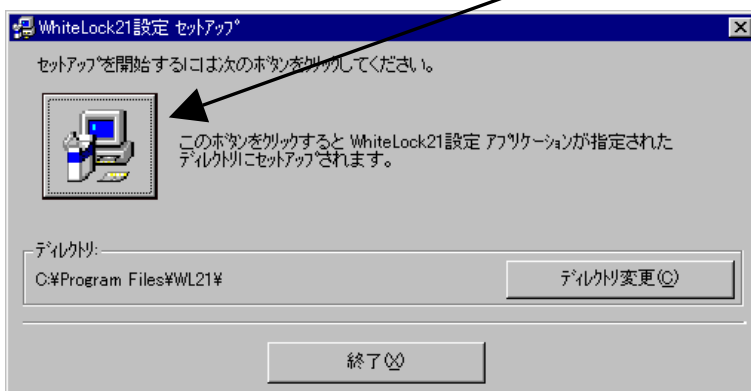
以下のダイアログボックスが表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。



[OK]ボタンをクリックすると下記の画面が表示されます。

インストール先のディレクトリを変更したい場合は、[ディレクトリ変更(C)] ボタンをクリックして変更します。

設定ソフトウェアをインストールするディレクトリを指定して大きなボタンをクリックします。



インストールを中断しない限り、[終了(X)] ボタンをクリックしないで下さい。
このボタンをクリックすると、インストールせずに終了してしまいます。

以下の画面が表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。



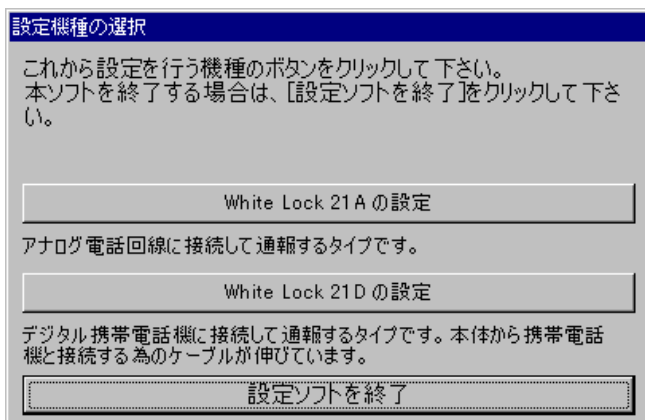
[OK]ボタンをクリックしてセットアップが終了したら、**パソコンを再起動**させて下さい。

設定ソフトウェアの起動

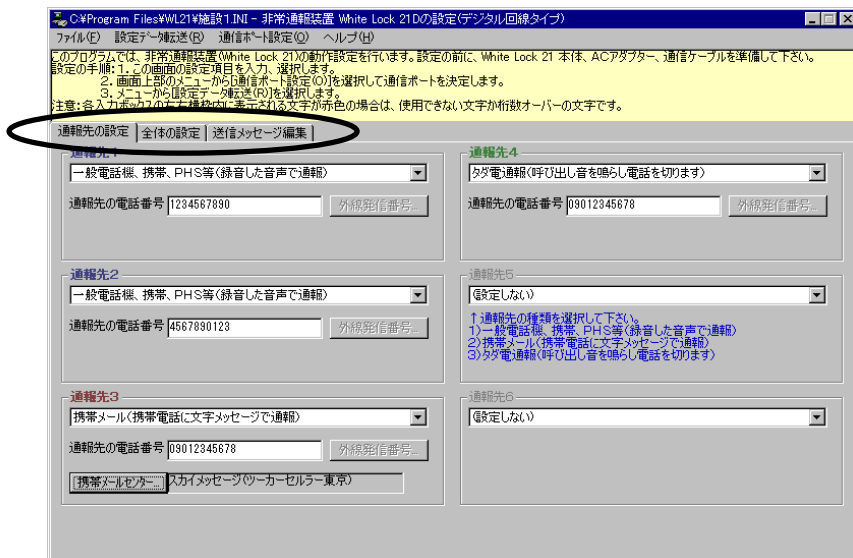
[スタート]メニューから[プログラム(P)]の[WhiteLock21 設定]を選択して設定ソフトウェアを起動して下さい。

起動すると下記の「設定機種の選択」画面が表示されます。

設定を行う製品のボタンをクリックします。また、誤って設定ソフトウェアを起動した場合は、[設定ソフトを終了]ボタンをクリックして終了して下さい。



「WL21」の設定画面は、「通報先の設定」、「全体の設定」、「送信メッセージ編集」の3つがあります。中央上の「タブ」をクリックして3つの画面を切り替えます。



画面の各設定項目上にマウスポインタを移動させると、項目毎の説明が表示されます。

[通報先の電話番号]、[携帯メールセンター]など設定項目が赤い文字で表示されている場合は、必須の入力項目のときか入力に誤りがある場合です。

「WL21」への転送は何回でも行えますので、最初は練習のつもりで色々を変えて転送してみてください。

「WL21A」の設定画面には、「WL21D」には無い[外線発信番号]の設定があります。その他は「WL21D」と同じです。

[通報先の設定] タブで通報先に「携帯メール」が選択されていなければ[送信メッセージ編集]タブを選択できません。

通報先の設定

通報先をここで指定します。最大6箇所まで指定できます。通報先毎に「音声通報」、「携帯メール通報」、「タダ電通報」を選択できます。

通報先の種別

録音した音声で通報する場合は、「一般電話機・携帯・PHS等…」を選択します。携帯へメッセージで通報するときは「携帯メール…」を選択します。呼出音を鳴らしてすぐ電話を切る場合は、「タダ電通報…」を選択します。通報をしない場合は「(設定しない)」を選択します。

下図の下矢印(▼)をクリックすると一覧が表示されます。

通報先1から6までどこに設定してもかまいません。通報する順番は通報先1、通報先2、…通報先6となります。全ての通報先を「(設定しない)」にすると、どこにも通報しません。テレコンのみ使用したい場合は全て「(設定しない)」にしておきます。

初期状態は全て「(設定しない)」になっています。

通報先の電話番号

通報したい一般回線電話機、携帯電話、PHS の電話番号を入力します。24 桁まで入力できます。電話番号に、市外局番が必要な時は必ず入力してください。「WL21D」では必要です。

入力の際に、ハイフン（-）は入れないで番号部分のみ入力します。

また、P B X 交換機の内線へ通報するときは、内線番号を入力します。（WL21A）

ダイヤル回線の場合は、' #' や ' * ' は使用できません。（WL21A）

発信者番号を通知する場合は、電話番号の先頭に「186」を入力します。通報先が携帯メールの場合「186」は入力しないで下さい。発信者番号を通知できるのはドコモのショートメールだけです。「携帯メールセンター」でショートメールを選択してれば発信者番号通知になります。他の携帯メール（スカイメール、Cメールなど）では発信番号通知はできません。

下図は音声通報の場合です。03-1234-5678 へ音声通報します。

通報先1

一般電話機、携帯、PHS等(録音した音声で通報)

通報先の電話番号 0312345678

外線発信番号...

下図はタダ電通報の場合です。090-1234-5678 へ発信者番号通知でタダ電通報します。

通報先2

タダ電通報(呼出音を鳴らし電話を切ります)

通報先の電話番号 18609012345678

外線発信番号...

下図は携帯メールの場合です。090-1234-5678 へショートメールで送信します。

通報先3

携帯メール(携帯電話に文字メッセージで通報)

通報先の電話番号 09012345678

外線発信番号...

携帯メールセンター... ショートメール(NTTドコモ)

外線発信番号(WL21Aのみ)

下図は「WL21A」で0発信して1234-5678へ音声通報します。

「PBX交換機の内線に接続して外線へ通報するときは、電話番号の先頭に外線発信する番号(ゼロ発信なら0)を入力してコンマ(,)を2つ入力します。コンマ1つは「0.5秒待て」という指定です。[外線発信番号...]ボタンをクリックすると簡単に入力できます。

0をクリックすると「0,,」が入力され、「なし」をクリックすると「0,,」や「9,,」があった場合削除されます。「キャンセル」をクリックすると何も変更しません。

外線発信番号をダイヤルした後の待ち時間が足りない場合はコンマをいくつか入力してください。0.5秒ずつ待ち時間が長くなります。「0,,,12345678」とすると2秒の待ち時間になります。

「WL21D」では外線発信番号の設定は必要ありません。通報先が携帯メールの場合は、携帯メールセンターの設定で外線発信番号を指定します。

携帯メールセンター

携帯メールで通報する場合は通報先の携帯電話に対応するメールセンターを選択する必要があります。

下図は090-1234-5678へ携帯メールで通報する設定で、メールセンターが未選択の状態です。

ここで、[携帯メールセンター...]ボタンを押します。携帯メールセンター設定ダイアログが表示されます。

下図は携帯メールセンター設定ダイアログです。

携帯メールセンター設定

携帯メールセンター: ショートメール(NTTドコモ)

通報先がドコモの携帯電話で、通報元が一般電話回線かドコモ以外の携帯電話の場合はこれを選んで下さい。通報元もドコモの携帯電話なら「ショートメール(NTTドコモからNTTドコモ)」を選んで下さい。

手順文字列: 1860903101655D2D1D9D2D8##

外線発信番号...

手順詳細	文字の説明
1860903101655をダイヤル	0〜9*#...文字そのものをダイヤルします。
15秒待つ	...0.5秒待ちます。
通報先電話番号送信	D0...1秒待ちます。
10秒待つ	D1...5秒待ちます。
メッセージ送信	D2...10秒待ちます。
##をダイヤル	D7...強制切断。
	D8...メッセージを送信します。
	D9...通報先電話番号を送信します。

OK キャンセル

通報先電話番号に携帯電話の電話番号が入力されていれば対応したメールセンターが選択されます。「(ユーザー設定)」になっていたら、対応するメールセンターを選択してください。

下図の下矢印(▼)をクリックすると一覧が表示されます。

携帯メールセンター: (ユーザー設定)

(ユーザー設定)

ショートメール(NTTドコモ)

ショートメール(NTTドコモからNTTドコモ)

スカイメール(J-フォン北海道)

スカイメール(J-フォン東北)

スカイメール(J-フォン東京)

スカイメール(J-フォン東海)

スカイメール(J-フォン関西)

- ・ショートメール(NTT ドコモ)

通報先がドコモの携帯電話で、通報元が一般電話回線(WL21A)か、ドコモ以外の携帯電話(WL21D)の場合はこれを選んで下さい。通報元もドコモの携帯電話なら「ショートメール(NTT ドコモから NTT ドコモ)」を選んで下さい。

- ・ショートメール(NTT ドコモから NTT ドコモ)
通報先がドコモの携帯電話で、通報元もドコモの携帯電話の場合はこれを選んで下さい。通報元が一般電話回線かドコモ以外の携帯電話の場合は「ショートメール(NTT ドコモ)」を選んで下さい。
- ・スカイメール(J-フォン****)
通報先が J-フォンの携帯電話で、契約されている地域が****の場合はこれを選んで下さい。
****には、北海道、東北、東京、東海、関西、北陸、中国、四国、九州があります。
- ・Cメール(AU)
通報先がAUの携帯電話の場合はこれを選んで下さい。
- ・Cメール(****セラー)
通報先がセラーの携帯電話で、契約されている地域が****の場合はこれを選んでください。
****には、北海道、東北、北陸、関西、中国、四国、九州、沖縄があります。

「WL21A」で外線発信番号を設定する必要がある場合は、ここで行います。



0発信させる場合は、「外線発信番号」をクリックして「0」をクリックします。すると、手順文字列の先頭に「0,」が挿入されます。

メールセンターが設定できたら、[OK]ボタンをクリックしてください。

携帯メールセンターの編集

該当する携帯メールセンターが一覧に無い場合、既存のメールセンターの電話番号が変わった場合、メールセンターの送信手順が変わった場合など、送信手順を編集する必要があります。

携帯メールを送信する手順は以下のようになります。

- ① メールセンターに電話をかける。
- ② ガイダンスが流れる。
- ③ 送信先の電話番号をダイヤルする。
- ④ ガイダンスが流れる。
- ⑤ メッセージをダイヤルする。
- ⑥ ガイダンスが流れる。
- ⑦ 電話が切れるのを待つ。

これを手順文字列に入力します。

まず、携帯メールセンターで「(ユーザー設定)」を選択しておきます。



送信手順は「手順文字列」のところに英数字を入力して指示します。「手順詳細」には入力した手順がわかりやすく表示されます。

手順文字列
09041077000
手順詳細
09041077000をダイヤル

- ① メールセンターの電話番号を入力します。例としてスカイメールのメールセンター「090-4107-7000」を入力します。
- 手順文字列に「09041077000」と入力すると同時にその下の[手順詳細]に「09041077000をダイヤル」と表示されます。手順文字列に数値を書くとその数字をダイヤルすることになります。

手順文字列
09041077000D2
手順詳細
09041077000をダイヤル 10秒待つ

- ② 「宛先の電話番号入力最後に#を押してください」のガイダンスが流れるのを待ちます。10 秒待つには「D2」を入力してください。
- 時間を待つ命令には他に、「D0」…1 秒待つ、「D1」…5 秒待つ、「,」…0.5 秒待つがあります。手順文字列に「D2」を書くと同時に「手順詳細」に「10 秒待つ」と表示されます。

手順文字列
09041077000D2D9#
手順詳細
09041077000をダイヤル 10秒待つ 通報先電話番号送信 #をダイヤル

- ③ 通報先の電話番号送信するには「D9」を入力します。「D9」は「通報先の設定」タブで指定した「通報先の電話番号」を送信するという命令です。
- 「D9」を入力すると同時に「手順詳細」に「通報先電話番号送信」と表示されます。
- ④ ガイダンスの通りに通報先の電話番号を送信したら最後に「#」を送信します。「D9」の後に「#」を入力します。
- 「#」を入力すると同時に「手順詳細」に「#をダイヤル」と表示されます。

手順文字列
09041077000D2D9#D2D8##*
手順詳細
09041077000をダイヤル 10秒待つ 通報先電話番号送信 #をダイヤル 10秒待つ メッセージ送信 ##*をダイヤル

- ⑤ 「メッセージを入力し最後に#を2回押してください」のガイダンスが流れるのを待ちます。10 秒待つには「D2」を入力します。
- ⑥ メッセージをダイヤルします。「送信メッセージの編集」タブで作成したメッセージを送信するには「D8」を入力します。
- ⑦ ガイダンスの通りにメッセージを送信したら最後に「#」を2回送信します。「手順文字列」に「##」を入力します。スカイメールの場合は最後に「*」も入力します。
- ⑧ あとはメールセンターから電話が切れるのを待ちます。何も入力する必要はありません。

手順文字列を作成して[OK]を押すと設定は完了です。

「WL21D」の場合、最後はメールセンターから電話が切れるのを待ちますが、「WL21A」の場合は電話を切るまでを設定します。全ての手順が終わった後、15 秒待つて電話を切る命令、「D2D1D7」を入力します。

手順文字列

090410770000D2D1D9#D2D8##*D2D1D7

修正されたメールセンターは「(ユーザー設定)」となります。

通報先6

携帯メール(携帯電話に文字メッセージで通報)

通報先の電話番号 09012345678 外線発信番号...

携帯メールセンター... (ユーザー設定)

全体の設定

全体の設定は2つのタブをクリックすると表示される下図の画面で行います。

通報先の設定 | **全体の設定** | 送信メッセージ編集

通報を終了する条件

☒ 全ての通報先に通報できたら終了

☐ 通報先の何所か1ヵ所に通報できたら終了

☐ 停電や復電時に通報する

解除呼出の方法

☐ 全ての入力信号が解除になると解除呼出を行います

☐ 各入力信号が解除する度に解除呼出を行います

☒ 解除呼出を行わない

入力信号の接点仕様

☐ 入力信号1

☐ 入力信号2

☐ 入力信号3

☐ 入力信号4

☐ 入力信号5

☐ 入力信号6

☐ 入力信号7

☐ 入力信号8

チェックを入れると入力が OFF のときに通報します

☒ **テレコン**

パスワード 0000 入力信号の確認とテレコンコマンドのパスワードを数字4桁で設定します

出力信号を ON にする為のコマンドを数字4桁で設定します

出力信号を OFF にする為のコマンドを数字4桁で設定します

出力1 ON	0001	出力1 OFF	0005
出力2 ON	0002	出力2 OFF	0006
出力3 ON	0003	出力3 OFF	0007
出力4 ON	0004	出力4 OFF	0008

通報を終了する条件

通報先が1ヵ所の場合は、設定の必要がありません。
 詳細説明は14ページの「通報を終了する条件」をお読み下さい。

通報を終了する条件

- ☒ 全ての通報先に通報できたら終了
- ☐ 通報先の何所か1ヵ所に通報できたら終了

停電や復電時に通報する

□内をクリックする毎にチェックが付いたり消えたりします。チェックを付けると停電や復電時に通報するようになります。詳細説明は13ページの「停電時発信」をお読みください。

☐ 停電や復電時に通報する**解除呼出の方法**

入力信号が解除されたとき（機器の故障やセンサーの信号が「なし」の状態になったとき）に通報する方法を、ここで選択します。呼出方法についての詳細説明は10ページの「呼出の種類と通話料金」をお読みください。

解除呼出の方法

- ☐ 全ての入力信号が解除になると解除呼出を行います
- ☐ 各入力信号が解除する度に解除呼出を行います
- ☒ 解除呼出を行わない

入力信号の接点仕様

各入力のア接点、b接点を変更します。□内チェックでb接点仕様です。

入力信号の接点仕様

- ☐ 入力信号1
 - ☐ 入力信号2
 - ☐ 入力信号3
 - ☐ 入力信号4
 - ☐ 入力信号5
 - ☐ 入力信号6
 - ☐ 入力信号7
 - ☐ 入力信号8
- チェックを入れると入力が OFF のときに通報します

制御装置やセンサーの出力信号は「通報有り」としたいとき、接点が短絡するものや、解放になるものがあります。通常は「通報有り」のとき短絡信号を出力する場合がありますが、制御装置などでは様々です。

ここでは「通報有り」のときに短絡する信号の場合は□内のチェックをはずし、逆に解放となる場合は□内にチェックを付けます。つまり、チェックを付けたものは短絡された状態が通報しないときとなります。設定後にテストされるときはご注意ください。

ソフトを起動したときはチェック付いていません。

テレコン

テレコンを使用するにはここにチェックを付けます。

☒ テレコン

パスワード 入力信号の確認とテレコンコマンドの為のパスワードを数字4桁で設定します

出力信号をONにする為のコマンドを数字4桁で設定します

出力1 ON 出力1 OFF

出力2 ON 出力2 OFF

出力3 ON 出力3 OFF

出力4 ON 出力4 OFF

出力信号をOFFにする為のコマンドを数字4桁で設定します

チェックを外すと本装置に電話をかけても着信しません。テレコンを使用しない場合はチェックを外してください。

パスワードの欄には認証に必要なパスワードを0～9の数字4桁で指定します。

出力信号をON、OFFにする為の出力コマンドを0～9の数字4桁で指定します。全てのコマンドはそれぞれ違う4桁の数字を指定します。同じコマンドがあるとエラーとなります。

使用しない出力信号でもコマンドは設定してください。テレコンについての詳細説明は16ページの「テレコン」をお読みください。

送信メッセージの編集

送信メッセージの編集は3つのタブをクリックすると表示される下図の画面で行います。

文字の種類

携帯メールセンターにより使用できる文字の種類と文字数が違いますので、通報する携帯電話で受信できる携帯メールにあわせて文字の種類を選択してください。

携帯メールの通報先にショートメールとCメールがある場合は、どちらのメールでも使用できる文字でメッセージを作成しなければならないので「ショートメール・Cメール(全角半角 50 文字)」を選んでください。

携帯メールで送信できる文字の種類には「数字モード」、「フリーメッセージ」、「拡張フリーメッセージ」、「定型分」、「区点コード」の5種類あります。「WL21」はこのうち、「フリーメッセージ」「拡張フリーメッセージ」「区点コード」で文字を贈ることができます。「文字コード」66ページを参照してください。

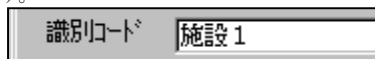
- ・ショートメール(半角全角 50 文字)

ショートメールで送信できる最大文字数は、半角全角にかかわらず 50 文字です。「フリーメッセージ」と「区点コード」が使用できます。

- ・スカイメール・スカイメッセージ(全角 50 文字)
スカイメールで送信できる文字数は全角 50 文字です。半角文字は使用できません。「区点コード」が使用できます。
- ・Cメール(全角 50 文字・半角 100 文字)
Cメールで送信できる文字数は全角なら 50 文字、半角なら 100 文字です。「フリーメッセージ」と「拡張フリーメッセージ」と「区点コード」が使用できます。
- ・ショートメール・スカイメール(全角 50 文字)
ショートメールとスカイメール共通で送信できる文字数は全角 50 文字です。半角文字は使用できません。「区点コード」が使用できます。
- ・ショートメール・Cメール(全角半角 50 文字)
ショートメールとCメール共通で送信できる文字数は、半角全角にかかわらず 50 文字です。「フリーメッセージ」と「区点コード」が使用できます。
- ・スカイメール・Cメール(全角 50 文字)
スカイメールとCメール共通で使用できる文字数は全角 50 文字です。半角文字は使用できません。「区点コード」が使用できます。
- ・ショートメール・スカイメール・Cメール(全角 50 文字)
ショートメールとスカイメールとCメール共通で使用できる文字数は全角 50 文字です。半角文字は使用できません。「区点コード」が使用できます。

識別コード

識別コードは、複数の通報装置から通報を受信したとき、相手を特定するために使用する文字です。



送信されるメッセージは“識別コード” + “)” + “入力信号のメッセージ”となります。(識別コードの後ろに半角文字のカッコが付きます)

必要なければ識別コードを設定する必要はありません。そのときは“)” も付きません。“入力信号のメッセージ” だけが送信されます。

入力信号1～8

各入力に該当する信号が「有り」になったとき、ここで設定するメッセージが携帯メールで送信されます。

入力信号1	入力信号1
-------	-------

「全体の設定」タブの「解除呼出の方法」で「各入力信号が解除する度に解除呼出を行います」にチェックを付けていた場合、信号が「有り」になったとき“ON”が、信号が「無し」になったとき“OFF”がこのメッセージの後ろに付きます。このときの最大文字数は4文字少なくなります。

全解除

「全体の設定」タブの「解除呼出の方法」で「全ての入力信号が解除になると解除呼出を行います」にチェックを付けていた場合に送信されるメッセージです。

全解除	全ての警報は解除しました
-----	--------------

停電・復電

「全体の設定」タブで「停電や復電時に通報する」にチェックを付けていた場合に送信されるメッセージです。

停電	停電しました
復電	復電しました

文字数

文字数
9
13
51

メッセージを入力すると現在の文字数が表示されます。「文字の種類」で「ショートメール」を選択してれば、全角1文字、半角1文字として数えた数が表示されます。それ以外の「文字の種類」の場合は、全角2文字、半角1文字として数えた数が表示されます。

「識別コード」が設定されていればその分の文字数も数えられます。

数字が赤く表示された場合は文字数がオーバーしている状態です。

「各入力信号が解除する度に解除呼出を行います」にチェックを付けていた場合、メッセージの後ろに“ON”または“OFF”が付くため、最大文字数は通常の文字数より4文字少なくなります。

表示サンプル

表示 サ ン プ ル	

それぞれのメッセージを入力するとき、カーソルが表示されているメッセージが携帯電話でどのように見えるかをあらわしたものです。

使用できない文字があればここに赤い文字で表示されます。

テスト文字列設定

テスト文字列設定

このボタンをクリックすると未入力のメッセージに適切なメッセージを設定します。動作チェックをするときに簡単にメッセージを設定できます。文字の種類で全角文字が使える場合と使えない場合で設定されるメッセージは違います。

	全角文字が使える	全角文字は使えない
識別コード	テスト	テスト
入力信号 1	入力信号 1	ニュリョク1
入力信号 2	入力信号 2	ニュリョク2
入力信号 3	入力信号 3	ニュリョク3
入力信号 4	入力信号 4	ニュリョク4
入力信号 5	入力信号 5	ニュリョク5
入力信号 6	入力信号 6	ニュリョク6
入力信号 7	入力信号 7	ニュリョク7
入力信号 8	入力信号 8	ニュリョク8
全解除	全解除	ALL OFF
停電	停電	テイデン
復電	復電	フクデン

通信ポートの確認

設定内容を転送する時に使用する通信ポートを選択します。

メニューから「通信ポート設定 (Q)」をクリックして、下記ウィンドウを開きます。

通信ポート設定

White Lock 21 に設定内容を送信するシリアルポートを選択して下さい。

☒ 通信ポートを自動的に検出する

通信ポート指定

☒ COM1 ☐ COM2 ☐ COM3 ☐ COM4 ☐ COM5

☐ COM6 ☐ COM7 ☐ COM8 ☐ COM9

OK キャンセル

選択できないポートは他で使用されているか、無い場合です。

通信ポートを自動的に検出する

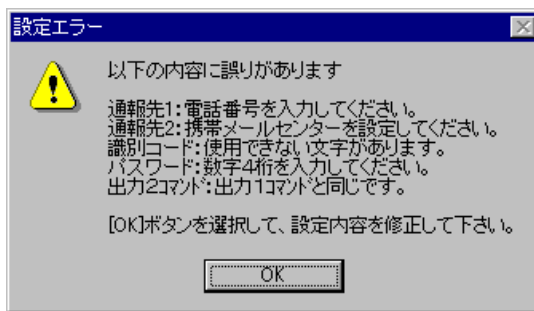
「WL21」に接続されている通信ポートを探して転送を行います。通常はここにチェックを付けておいてください。

通信ポート指定

「通信ポートを自動的に検出する」で転送が失敗する場合、チェックを外して「WL21」が接続されている通信ポートを選択してください。使用出来ない通信ポートがあれば薄色で表示されて選択できない状態になります。転送に使用する通信ポートをマウスで選択したら、[OK]ボタンをクリックします。

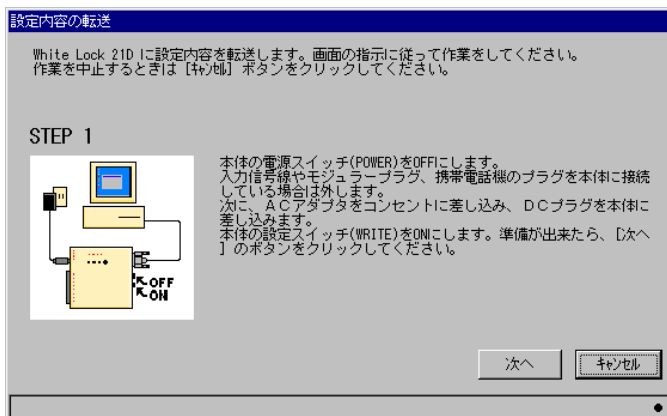
設定内容の転送

設定画面で入力が完了しましたら、メニューから「設定データ転送(R)」を選択して下さい。設定画面で、入力エラーがあったときは下図のようなメッセージが表示され、設定画面上の誤りが見つかった部分にカーソルが移動します。



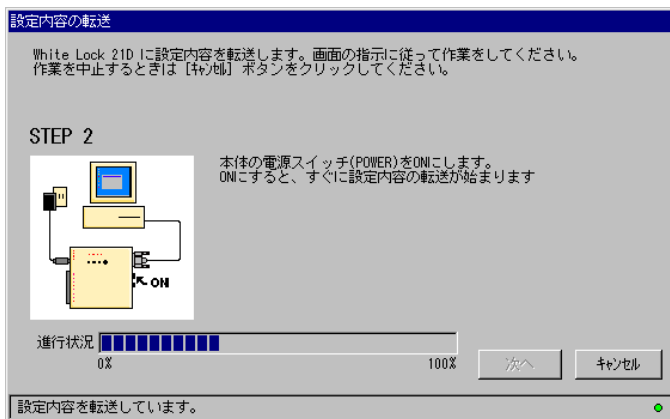
[OK] ボタンをクリックして、誤りが見つかった所を修正してから再度「設定データ転送(R)」を選択して下さい。

「設定内容の転送」画面では、製品本体に設定画面で入力された設定内容の転送作業を行います。画面に表示される説明に従ってスイッチの操作や通信ケーブルの接続を行います。内蔵電池が十分に充電されているれば、ACアダプタから電源供給をしなくても転送できます。



「次へ」のボタンをクリックします。

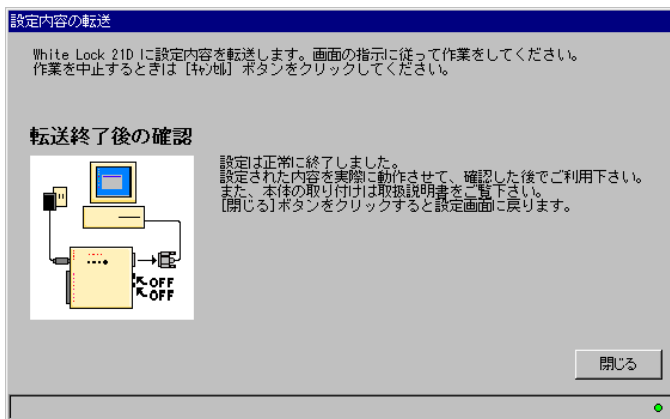
画面の指示に従って操作すると自動的にデータの転送が開始されます。



しばらくして、転送が終わると下図のようになります。



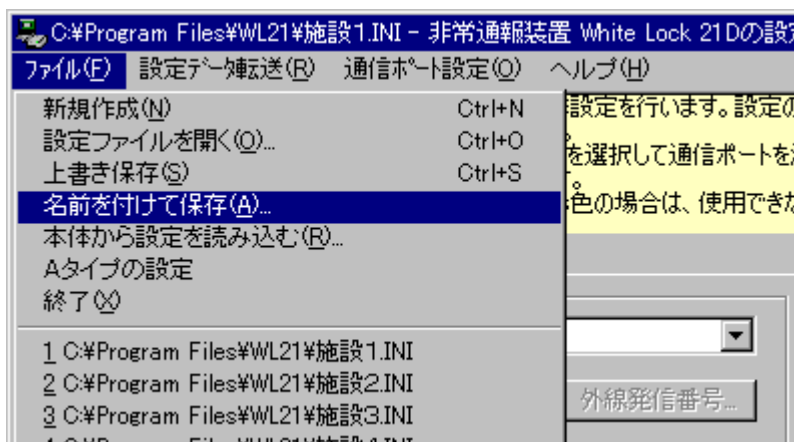
転送が終了し、通信ケーブルのコネクタを抜くと「次へ」のボタンが使えるようになります。「次へ」ボタンをクリックすると最後に確認画面が表示されます。



「閉じる」をクリックすると転送作業が終了し、元の画面に戻ります。

設定内容の保存と読み込み

設定内容をファイルに保存したり、ファイルから読み込んだりするにはメニューの「ファイル(F)」から行います。



設定された内容をファイルに保存する時は、[ファイル(F)] メニューの [名前をつけて保存(A)] を選択します。保存先のフォルダ、ファイル名を指定して[保存(S)] ボタンをクリックします。保存する設定ファイルは、INI の拡張子を持つファイルとなります。



新規作成

全ての設定項目を初期状態にします。通報先は全て「(設定しない)」で送信メッセージも全て未設定にします。現在の設定が保存してなければ保存するか問い合わせてみます。

設定ファイルを開く

保存した設定ファイルを開く場合は、[ファイル(F)] メニューの [設定ファイルを開く(O)] を選択し、開きたい設定ファイルを選択して[開く(O)]ボタンをクリックします。

現在の設定が保存してなければ保存するか問い合わせてみます。

上書き保存

既に開かれているファイルに上書き保存する場合は、[ファイル(F)] メニューの [上書き保存(S)] を選択します。

名前を付けて保存

設定された内容をファイルに保存する時は、[ファイル(F)] メニューの [名前を付けて保存(A)] を選択します。

本体から設定を読み込む

設定を本体から読み込みます。読み込み手順は「設定内容の転送」と同じなので39ページを参照してください。

「送信メッセージ編集」タブの「文字の種類」の設定は本体に保存されていないため、読み込むことはできません。読み込んだ後で適当な値に設定してください。

A タイプの設定・D タイプの設定

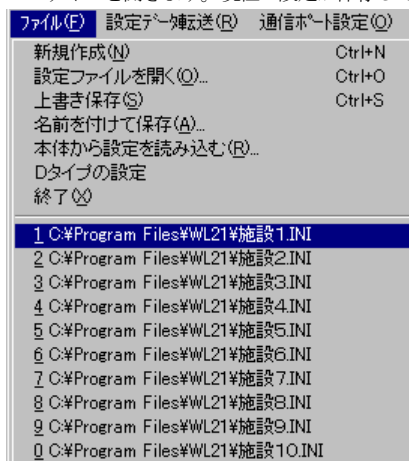
A タイプの設定中のなら D タイプの設定画面に、D タイプの設定中なら A タイプの設定画面にする。現在の設定が保存してなければ保存するか問い合わせてみます。

終了

設定ソフトを終了します。

以前に編集したファイル

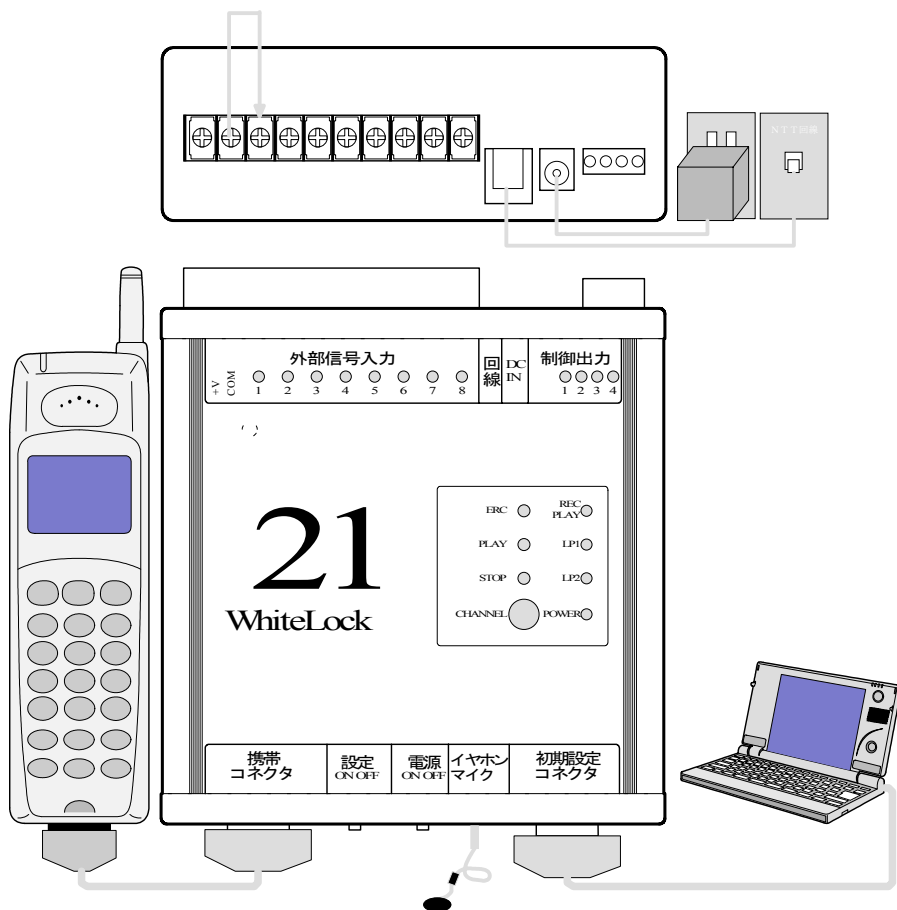
過去に開いたファイルの履歴を 10 個まで表示します。表示されているファイルを選択すると、そのファイルを開きます。現在の設定が保存してなければ保存するか問合わせます。



動作確認

本体の設定が終了したら、設定したように動作するか必ず確認して下さい。

1. 「電源スイッチ(POWER)」を OFF にします。
2. ACアダプターを電源コンセントに差し込み、ACアダプターから出ている電源プラグを本体の「DC IN」に接続します。接続方法は「ACアダプタの接続」46ページの説明をご覧ください。
3. 製品が「WL21A」の場合は、付属のモジュラーケーブルで電話回線と本体の LINE を接続します。接続はカチッと音がして完全に差し込まれていることを確認してください。
4. 製品が「WL21D」の場合は、本体から伸びている携帯プラグを携帯電話機に差し込みます。接続方法は「携帯電話機の接続」53ページの説明をご覧ください。
5. 「チャンネル切替スイッチ」が 0 になっていることを確認します。
6. 「設定スイッチ(WRITE)」が OFF になっていることを確認してから、「電源スイッチ(POWER)」を ON にします。「設定スイッチ(WRITE)」が ON になっていたら OFF にしてから電源スイッチを ON にします。
7. 各入力信号の端子と、共通端子をリード線等で結線させ、通報させます。音声通報なら通報先に電話がかかって音声が出るか確認して、携帯メールなら通報先の携帯電話にメールが届いたか確認して、タダ電通報なら通報先で呼出音が鳴ってすぐ切れるか確認してください。



設置方法

設置場所を決める

本体を設置する前に、本書の仕様を確認の上、設置場所を決めて下さい。
壁や天井などに取り付ける場合は、自動車用両面テープを使用して下さい。
また、本体と接続されるケーブルが余裕をもって設置出来るような空間を確保して下さい。

接続工事

本体側の電話回線

1. 一般回線用「WL21A」

NTT仕様の2線式のプッシュ回線及びダイヤル回線。ISDN回線をご利用の場合は、ターミナルアダプタ(TA)のアナログポートに接続します。

他の電話機やFAXの回線と併用(分岐)してお使いになる場合は、市販の分岐アダプタを購入してご利用ください。(本体にはモジュラー端子が1つしかついていません)

2. 携帯電話機用「WL21D」

NTT DoCoMo、セルラーなどのデジタル携帯電話機1台を接続します。PHS、cdmaOneは利用できません。

入力端子接続

接続に関するご注意

COM(共通端子)は端子の端から2番目になっていますお間違えないように。

接続できる信号は無電圧のものに限ります。商用(AC)100Vや直流電圧がかからないようにしてください。

「DC OUT」端子は、外部に接続するセンサーなどの電源に利用するための電源出力ですが、工場出荷時には電圧がでておりません。センサー電源が必要な時は弊社までお問い合わせください。

接続

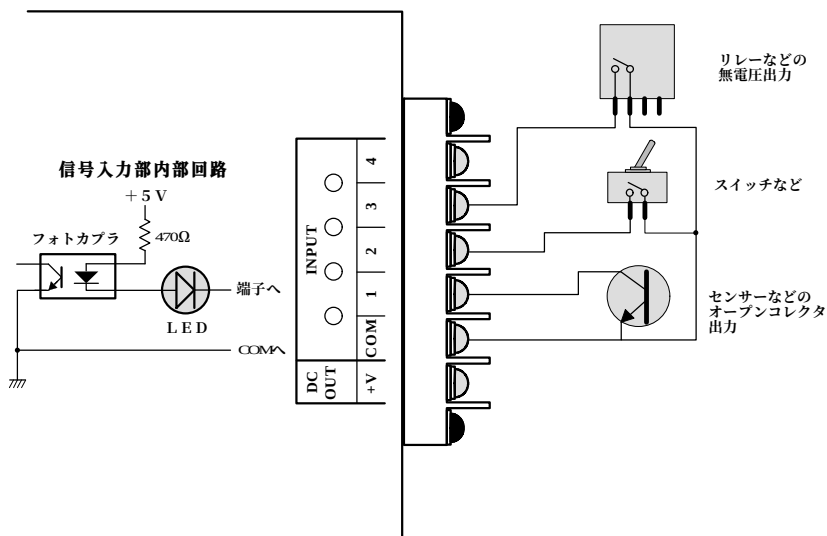
各信号はCOM(共通端子)と1～8の間に接続します。

信号は無電圧 a 接点または無電圧 b 接点の電圧のかかっていないものを接続します。

設定ソフトで各入力のア接点、b接点を変更することもできます。

1つの入力に複数の入力を並列に接続して一括故障などとすることもできます。

入力は、700ミリ秒以上の間、継続してON(OFF)の時に入力変化があったとみなし、通報します。



ACアダプタの接続

アダプタ本体をコンセントに差し込み、アダプタから伸びているコードのプラグを「DC IN」にさし込みます。

「電源ランプ」はACアダプタから電源供給が無いときでも内蔵電池から電気が供給されて、「電源スイッチ (POWER)」ONにすると、点灯します。

制御盤内部のACコンセントを利用する場合、ACコンセントに電気が来っていないことがあります。

制御盤内部のブレーカーやスイッチでコンセント電源を入り切り出来る場合はご注意ください。

内蔵電池を取り外してから「電源スイッチ (POWER)」をONにしたとき「電源ランプ」が点灯すればコンセントに電気がきています。

運転の開始

「設定スイッチ(WRITE)」について

実際に現場に取り付けて使用するときは、「電源スイッチ(POWER)」を ON にしている状態のときに「設定スイッチ(WRITE)」を ON にしないでください。(「電源スイッチ(POWER)」を ON にしている状態のときは、「設定スイッチ(WRITE)」を OFF のままにしておいてください)

このような操作を行うと、音声での通報の際に正しいメッセージを送れなくなります。一見すると正常動作をしているように見えますが、音声チャンネルがチャンネル1 しか使えなくなります。

通報の受信

受信装置

音声通報、タダ電通報を受信できるのは、一般電話機、携帯電話、PHSです。
 携帯メールを受信できるのは、携帯電話、PHSです。
 発信する文字は「フリーメッセージ」「拡張フリーメッセージ」「区点コード」です。
 使用する受信装置の説明書を見て、受信できる最大文字数が何文字かを確認してください。

音声通報を電話機で受信したとき

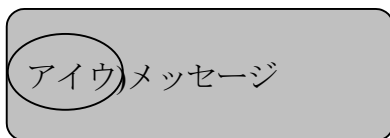
電話のベルが鳴ったら受話器をとります。最初に録音チャンネル0の音声が聞こえ、続いて該当する入力信号に対応する録音内容が聞こえます。受話器を上げている間繰り返します。
 「WL21D」、「WL21A」とも受話器をとってから120秒を過ぎると、通報装置が電話を切ります。この場合はしばらく待つと再び電話がかかってきます。120秒以内に受話器を下ろせば（受信した側で電話を切る）、通報装置は正しく相手に通報できたと認識して以後通報はしません。

携帯メールを通報先に指定した場合

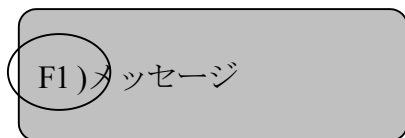
通報が終わると、センターから携帯電話に信号が送られます。時間帯によっては1分以上かかることもあります。

識別コード部の表示について

識別コードの後ろに")"が自動的に付加されます。これは、識別コードとその後ろに表示されるメッセージを見やすくするためです。 アイウ と入力した場合の例



F 1 と入力した場合の例



メッセージ部の表示について

「全ての入力信号が解除になったときに解除通報を行います」に設定しているときで、

ポンプ1故障 と入力した場合の例

00**Q**ポンプ1故障

「各入力信号が解除するたびに解除呼出を行います」に設定しているときで、信号入力が「有り」の状態となり、設定で **ポンプ1故障** と入力した場合の例

00**Q**ポンプ1故障 ON

「各入力信号が解除するたびに解除呼出を行います」に設定しているときで、信号入力が「無し」の状態となり、設定で **ポンプ1故障** と入力した場合の例

00**Q**ポンプ1故障 OFF

携帯メールを通報先に指定した場合のご注意

設定ソフトウェアで、「各入力信号が解除するたびに解除呼出を行います」を選択された場合にメッセージが受信できないことがあります。

理由は、設定されたメッセージの後へ「OFF」等が自動付加されたために文字数がオーバーしたためです。このようなときは設定するときの文字数を減らしてみてください。

動作モニター

表示モニターランプ

起動時

「WL21A」の場合、電源ONでLP1、LP2 が点灯します。「WL21D」の場合、電源ONでLP1、LP2、録音再生が点灯します。「WL21D」の場合はすぐ3つとも消灯して通報可能な状態になります。「WL21A」の場合は、2つとも点灯した3秒後にどちらかが先に消え、その0.5秒後にもう一方も消えます。プッシュ回線ならLP2 が先に消え、ダイヤル回線ならLP1 が先に消えます。

設定スイッチ(WRITE)ON で起動したとき

LP1、LP2 ともに点灯します。

設定ソフトで転送を行ったとき、転送中はLP1、LP2 ともに点滅します。転送が終了するとLP1、LP2 ともに点灯した状態です。

設定ソフトで転送を行わないときはすぐにLP1、LP2 ともに消灯します。音声を録音できる状態になります。録音中はLP1 が点灯し、再生中はLP2 が点灯します。

通報の状態から見たとき

1. 電話を接続中
「LP1 (黄色)」点灯 (受話器を上げたときから受話器を下ろすまでの間)
2. 話し中であったとき
「LP1 (黄色)」高速点滅(3秒間)。このあと3項に進む
3. 再ダイヤル待機中
「LP1 (黄色)」低速点滅(再ダイヤルを開始するまで)。待機時間終了で1項へ進む
4. 相手が電話に出なかったとき
「LP2 (赤色)」高速点滅(3秒間)。このあとで「LP1 (黄色)」が消灯する
5. 使われていない番号にかけたとき、または電波の状態が悪くて正しくダイヤル出来なかったとき
発信開始で「LP1 (黄色)」が点灯し、しばらく待つと、「LP1 (黄色)」と「LP2 (赤色)」が両方とも高速点滅(3秒間)。その後「LP1 (黄色)」、「LP2 (赤色)」は消灯し、3項へ進む(相手先番号の確認が必要)
6. 発信先(相手)が受話器を取ってから通話後に受話器を下ろして通報が終わったとき
「LP1 (黄色)」は消灯し、「LP2 (赤色)」が一定時間高速点滅します。その後「LP2 (赤色)」は消灯します。
7. 携帯プラグやモジュラープラグが携帯電話機や電話回線に接続されていないとき
発信時に「LP1 (黄色)」が点灯しダイヤルを開始します。「LP1 (黄色)」のランプは点灯したままの状態となります。
8. 設定モードのとき
「LP1 (黄色)」、「LP2 (赤色)」とも点灯

ランプの点灯状態から見たとき

LP1 (黄色)	LP2 (赤色)	通報の状態
消灯	消灯	電話が切れている。通報は全て完了している。入力信号待ちの状態
点灯	消灯	電話をかけているとき。電話がかかってきたとき。着信処理中。
低速点滅	消灯	再ダイヤル待機中
高速点滅	消灯	話し中の時
消灯	点灯	
点灯	点灯	設定モードのとき
消灯	高速点滅	通報が正常に終わった後の6秒間の間。 テレコンが正常に終わった後の6秒間の間。
点灯	高速点滅	一定時間待っても相手が電話に出なくて通報装置が電話を切った後の3秒間の間
高速点滅	高速点滅	使われていない番号にかけたとき。 電波の状態が悪くて正しくダイヤル出来なかったとき。 メール送信中に途中で回線が切れてしまったとき。

停電保証について

充電式電池が新品の場合で、完全充電されている状態では3時間以上動作し続けます。但し発信する回数により増減します。

停電通報を受信した場合で、停電保証時間を経過しても復電通報を受信しなかった場合は点検してください。

内蔵電池

製品に内蔵されております電池は、ニッケル水素充電電池（150mAh）です。

内蔵電池の充電はACアダプタが正しく接続され、商用電源が供給されているときは「電源スイッチ(POWER)」がOFFでも充電しています。充電はトリクル充電方式により、過充電にならない程度に弱い充電を常時行っております。電気代はわずかですが、長期間にわたって通報装置として使用されないときはACアダプタをコンセントから抜いておかれることをお勧めします。また、停電保証が不要（停電通報しない）のときは設置時に取り外してください。

手動で、停電状態（ACアダプタのプラグを抜いた状態）にして、停電保証が必要な時間内に電源ランプが暗くなるようでしたら交換が必要です。

ACアダプタから電源を供給せずに「電源スイッチ(POWER)」をONにしてお使いになるような場合や、停電が長引いて電池の電圧が完全になくなったときは、完全充電までに24時間以上かかることがあります。

電池の交換をするときは、ケース裏面の電池蓋をスライドさせて蓋をはずしてください。電池は、ニッケル水素充電電池 006P型、9V仕様 または ニッカド充電電池の006P型、8.4V仕様のもので使用できます。電池はホームセンターなどで入手できます。

タイプ別に異なる部分

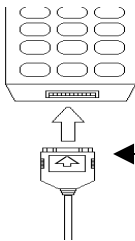
携帯タイプ「WL21D」

携帯電話機の設定

暗証番号またはロックコードを初期値(購入時の状態または設定されていないときの状態)例えば、「0000」などに変更して下さい。(このとき登録済みの番号を控えておいてください)
 携帯電話機の機種によってはこの設定が不要場合があります。確認方法は動作確認後にこの設定を任意のものへ変更して正常に発信動作すれば初期値に設定する必要はありません。
 ※暗証番号またはロックコードの設定方法は各携帯電話機の説明書をお読みください。

携帯電話機の接続

本体から伸びている携帯プラグを携帯電話機のジャックに接続します。
 コネクタは、「カチッ」と音がしてロックされるように差し込みます。
 コネクタを外す場合はプラグ横のロックボタンをつまみながら引き抜いてください。
 コネクタが接続されると、携帯電話機の電源がONになります。(既に携帯電話機の電源がONになっている場合は、ONのままです。)
 携帯電話機の電源をOFFにしてからコネクタを接続すれば、コネクタの接続と同時に携帯電話機の電源がONになるのでケーブルの接続確認が出来ます。



携帯電話機の機種によって、コネクタを差し込む上下面は異なります。

携帯電話機への充電

ACアダプタから電源が供給されている場合に、定期的に充電します。
 本体の電源をオンにすると充電状態(100分間)となります。一定時間(およそ24時間)毎に充電を繰り返します。

参考：携帯電話機のバッテリーは最大充電回数500回程度のものが多く使われています。
 高度な自動充電回路を接続してもこの回数を越えることはできません。
 従って本装置では最も単純で確実な定期充電方式を採用しております。
 携帯電話機は、携帯の電池を取り外した状態では使用できないようになっています。

「WL21D」に携帯電話機を接続した状態では携帯の電池が寿命となっても引き続き利用できる場合がありますが、電源プラグを抜いたときに携帯電話機の電源が切れたり、電源が入らなくなったときは携帯電話機の電池を新しいものに交換してください。

携帯電話に充電中は「WL21D」本体が暖かくなりますが、故障ではありません。充電はおよそ100分で終了します。

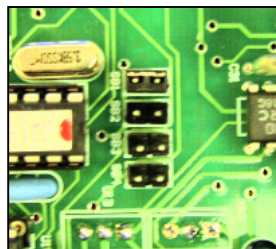
携帯電話機の充電電圧の設定

本体のケースを開けると基板上に「SB1」～「SB4」のショートバーがあります。このショートバーで携帯電話機の充電電圧を設定します。

SB1	4.4V
SB2	4.8V
SB3	5.4V
SB4	5.8V

使用する携帯電話機の充電用ACアダプターに書いてある電圧に近い値を選んでください。

※携帯電話機のバッテリーに書いてある電圧ではありません。



これがショートバーです。

携帯電話の充電アダプターに書いてある電圧の値です。

使用上の注意事項「WL21D」

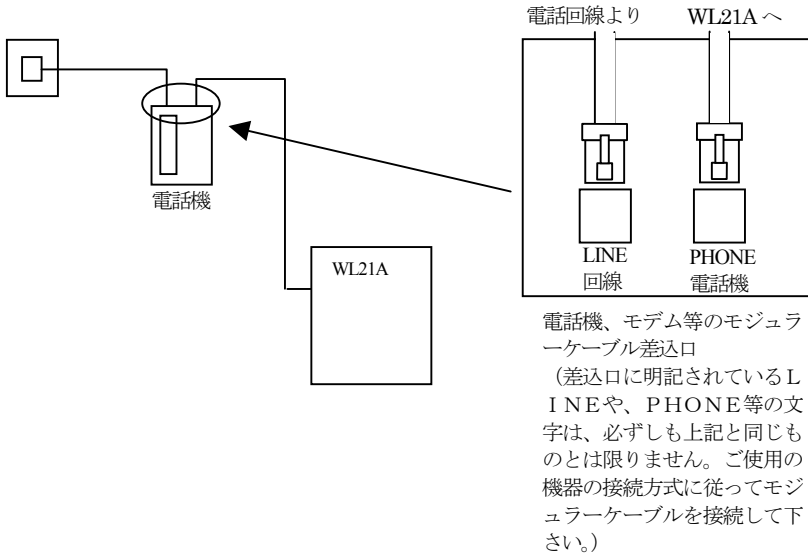
通報中に携帯電話機のボタン操作をしたり、携帯のプラグを抜き取った場合は誤動作します。

一般回線タイプ「WL21A」

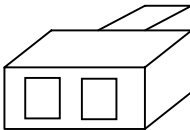
他の電話機やFAXなどの回線と併用するとき

本製品を既設の電話機やモデムの回線と併用するときは、終端に接続されるか、モジュラージャックを分配するアダプタをご使用下さい。

以下は、「WL21A」を電話回線の終端に接続する場合です。



電話回線からきているモジュラーケーブルを分配出来ない場合でも、図のようなモジュラージャック分配用のアダプタを使用することにより、他の機器に電話回線を分配することが出来ます。(ホームセンターなどで販売しています)



Q & A

携帯タイプ「WL21D」

Q. 携帯電話機の電源を切ることが出来ないのですが

A. 携帯プラグを抜いてから電源を切る操作をしてください。

Q. 本体が通報中に電話を切るにはどうしたら良いのですか。本体の電源をOFFにしても電話が切れないのですが。

A. 携帯電話機の電話を切るボタンを押してください。これで電話が切れますが、本体の電源をOFFにしないと、リダイヤルしますから本体の電源もOFFにしてください。

Q. 携帯の電源をOFFにしたままで携帯プラグを差し込むと携帯の電源が勝手にONになりますが大丈夫でしょうか？

A. 故障ではありません。携帯を接続したのにONにすることを忘れないようにこのようになっています。接続前に携帯の電源がONになっていたときはONのままとなりますが、携帯の電源がOFFになっているときに携帯プラグを差し込むと携帯の電源がONになります。

Q. 携帯電話機の充電ランプが点滅するのですが

A. 異常ではありません。携帯電話の機種によっては、充電電圧が低い状態の時にこのようになりますものがあります。本装置は充電の間は充電に必要な規定の電圧が携帯にかかりますが、充電完了後も低い電圧が出力されています。このときに携帯の充電ランプが点滅することがあります。

Q. 本体にモジュージャックが付いていますが、使えますか？

A. ご利用になれません。付いているだけです。

Q. 本体の電源をONにすると必ず携帯の充電が始まるのですが

A. 正常です。本装置は、本体の電源をONにしたとき、充電から監視するように作られているからです。

Q. 録音した音声で通報を受信したときの音質は本体からイヤホンで再生したときと比べて音質が悪いのですが

A. デジタル携帯電話機の音質が悪いためです。本装置の問題ではありません。

Q. 「WL21D」に携帯電話で電話をかけパスワードを入力しても次に進めません。

A. 「WL21D」では携帯電話からテレコンを行うことはできません。携帯電話から携帯電話に電話をかけてから、プッシュボタンを押してもプッシュトーンが相手に届かないためです。

Q. 電源を入れてしばらくすると本体から「カチカチ」と音がします。

A. 電池が少なくなっています。ACアダプタを挿してご利用ください。

一般回線タイプ「WL21A」

Q. 電話がつながらない

- A. 設定ソフトで選択した電話回線と実際にご利用になる電話回線にお間違いが無いかな確認して下さい。また、ビジネスホン、ホームテレホン、4線式電話機、デジタルPBXは接続することは出来ません。
アナログPBX交換機を介した接続についての注意は、6ページの「制限事項」をご覧ください。

タイプ共通

Q. 「WL21A」と「WL21D」を区別する方法は？

- A. 電源を入れて「録音再生」ランプが点灯する場合は「WL21D」です。点灯しない場合は「WL21A」です。

Q. 携帯メールとは何ですか？

- A. 携帯電話、PHS、一般回線電話などのプッシュトーンを送れる電話機から、各社携帯電話へ文字メッセージを送ることができます。電子メール（Eメール）ではありません。パソコンでは受け取れません。携帯電話で受信可能です。

携帯電話会社により名称は異なりますが、主なものは以下の通りです。

	ショートメール	スカイメール	Cメール
プロバイダー	ドコモ	J-フォン	AU
最大文字数	全角半角にかかわらず 50 文字	全角 50 文字	全角 50 文字、半角 100 文字
センター保存	72 時間	72 時間	72 時間
発信者番号	通知可	通知されない	通知されない
WL21 で使用できる文字コード	フリーメッセージ(*2*2) 区点コード(#)	区点コード(#)	フリーメッセージ(*2*2) 拡張フリーメッセージ(*3*3) 区点コード(#)

Q. 携帯メールのメッセージが文字化けするのですが

- A. 受信装置がメッセージを受信したとき、なんらかの電波ノイズが混入したときに起きる可能性があります。

「WL21D」の場合、電波の状態が悪いために電話が途中で切れたときは、文字が表示されず、着信音が鳴るだけでメッセージが表示されないことがあります。

この様な現象が頻繁に起きる場合は、2カ所の通報先に同一の携帯番号を設定して、2度呼出しを行うことで回避できる場合もあります。

また、送信するメッセージが長すぎると文字化けしやすくなります。メッセージを短くしてみてください。

Q. 呼出音が鳴りすぐ受話器を取ると、また電話がかかってくる

- A. 呼出音を2秒以上鳴らしてから受話器を取ってください。受話器を取るのが早すぎると、回線異常とみなし、もう一度電話をかけてきます。

Q. 音声録音された内容をイヤホンでモニターしたとき、前より音質が悪くなりました。

- A. 携帯プラグが携帯電話機に接続されていると再生時の音質が悪くなります。また、ACアダプタを使わず、内蔵電池のみで使った場合に電池の残り電圧が不足していると音質が悪くなります。

Q. 通報を受けたとき、入力信号のどれがONになっても同じメッセージが聞こえるのですが

- A. メッセージ録音時に、録音チャンネル0だけで録音していませんか。本説明書の「動作設定」「録音再生」をご覧ください。設定方法を確認して下さい。

Q. ドコモの携帯に半角の小さいカタカナ「アイウエオヤエヨ」を送信したい

- A. できません。小さいカタカナは「拡張フリーメッセージ」文字コードにありますからCメールでのみ送信できます。全角の小さいカタカナ「アイウエオヤエヨ」なら送信できます。

Q. 現在使われていない電話番号に通報するとどうなりますか？

- A. そのような場合を想定していませんので不定です。

Q. 接点毎に異なる通報先を指定したいのですが？

- A. できません。要望が多ければ検討します。

Q. 通報先の電話に誰も出ない場合はどうなりますか？

- A. 電話をかけ、30秒間呼出音を鳴らして、電話を切ります。10秒待機して、また電話をかけます。以後その繰り返しです。携帯電話(WL21D)から通報していたら、携帯電話の電池が無くなり、電話がかけられなくなります。24時間以内に携帯電話の充電がはじまり、携帯電話が使えるようになると、また電話をかけ始めます。

Q. 発信者番号を通知するには？

- A. 音声通報、タダ電通報の場合は、通報先の電話番号の先頭に「186」を入力してください。携帯メールの場合、発信者番号通知はドコモのショートメールだけ機能します。他のスカイメールやCメールでは発信者番号を通知することはできません。「携帯メールセンター」でショートメールを選択していれば発信者番号通知の設定はされていますので、「186」を入力する必要はありません。

Q. タダ電通報で呼出音が鳴る回数を指定したい

- A. 現在は呼出音が鳴ったと判定されたら電話を切ります。通報先の電話機の着信履歴に残すことを目的にしています。要望が多ければ検討します。

Q. クイックキャストに送信したいのですが

- A. 要望が多ければ検討します。

Q. 設定ソフトで以前の製品の設定ファイル(拡張子WLDのファイル)を読み込めますか？

- A. できません。

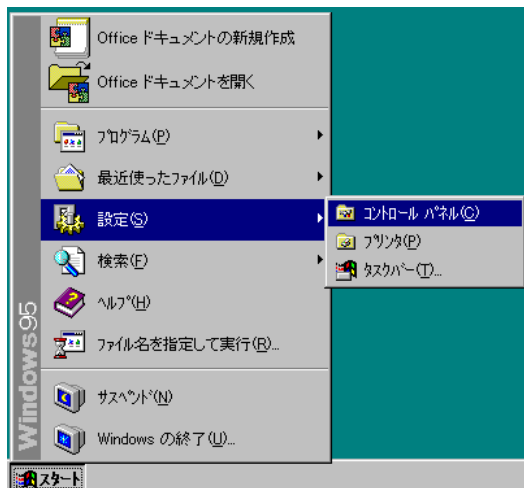
WhiteLock100New との違い

- ・クイックキャスト対応が無くなり、携帯メール対応となりました。
- ・「WL21A」で極性反転機能の無いPBX交換機、TAでも使用可能になりました。
- ・入力接点数が4点から8点に増えました。
- ・タダ電通報ができる。
- ・テレコンができる。
- ・1チャンネルあたり音声録音時間が20秒から10秒になりました。
- ・録音チャンネル数が8から16になりました。
- ・設定ソフトの保存ファイル拡張子がWLDからINIに変更しました。
- ・本体から設定を読み出すことが可能になりました。
- ・「WL21A」でプッシュ回線、ダイヤル回線は自動判定になり、設定項目から無くなりました。

こんなときには

設定ソフトウェアのアンインストール

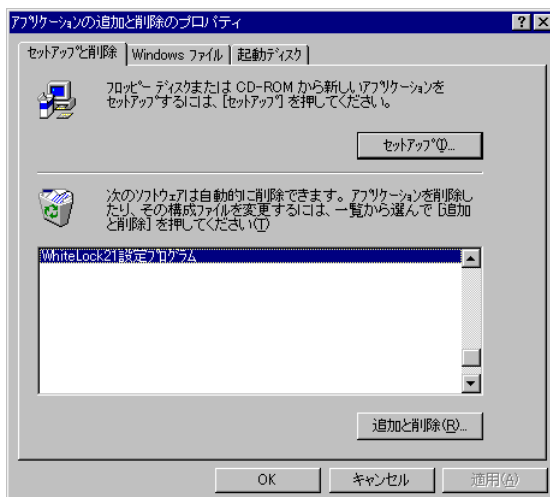
[スタート]メニューの、[設定(S)] から [コントロールパネル(C)]を選択して「コントロールパネル」を開きます。



コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。



削除したいプログラム(WhiteLock21 設定プログラム)を選択して、[追加と削除(R)...] ボタンをクリックして画面の指示に従います。



本体を清掃するときは

本体のよごれは、やわらかい布に水または中性洗剤を含ませて軽く拭いてください。
ベンジン、シンナーなど（揮発性のもの）や薬品を用いて拭いたりしますと、有害なガスが発生したり、変形や変色の原因になることがあります。

仕様

「White Lock 21」 本体

形式	音声及びDTMF呼出方式非常通報装置
適用回線	「WL21D」：デジタル携帯電話 「WL21A」：NTT仕様のアナログ電話回線(2線式)
回線接続方式	通信コネクタ (モジュージャック)
選択信号種別	プッシュボタン (PB) または、ダイヤルパルス (DP:20PPS)
動作設定	専用パソコンソフトで設定条件等をシリアル転送する
信号入力点数	8点及び停電復電1点 (フォトカプラ取込、内部設定)
信号出力点数	4点 (オープンコレクタ)
自動発信	入力変化
携帯メール発信	可 (英数カナ漢字でメッセージを送出)
話し中検知機能	あり (話し中及び通信が確立しないときにリダイヤル)
音声録音方式	圧縮無し直接録音方式
音声録音時間	16チャンネル装備。1チャンネル10秒、合計160秒
音声メモリバックアップ	不要 (フラッシュメモリー)
録音再生方法	イヤホンマイクを装備。録音・停止・再生ボタンによる
停電保証	内蔵電池により、3時間以上
携帯電話機充電機能	あり、繰り返し充電方式「WL21D」のみ)
制御CPU	8ビット3個のマルチCPU
外部インターフェース	シリアル9ピン(EIA-574)
電源	ACアダプタ AC100V 50/60Hz 5W
動作温度	0℃～40℃
動作湿度	15%～80% (結露なきこと)
周囲環境	腐食性ガスなきこと。 粉塵等汚れの激しい場所での使用は、カバー等で保護して下さい。
呼出電話番号設定	最大6カ所
バックアップ用充電電池	006P DC9V、ニッケル水素充電電池
寸法 (mm)	132(W)×150(H)×48(D)
重量	重量 約 540g 携帯電話機を除く、電池込みの本体重量

設定ソフトウェア

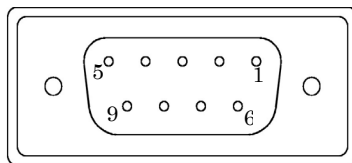
型式	White Lock 21 設定ソフトウェア
動作環境	Windows 95、Windows 98(SE)、Windows Me、 Windows NT4.0(SP5以降)、Windows 2000(SP1以降)、 WindowsXP 日本語のみ対応 メモリ 16M以上 ディスク空き容量 5M以上

インターフェイス仕様

コネクタの形状は、9ピン仕様の EIA-574 です。

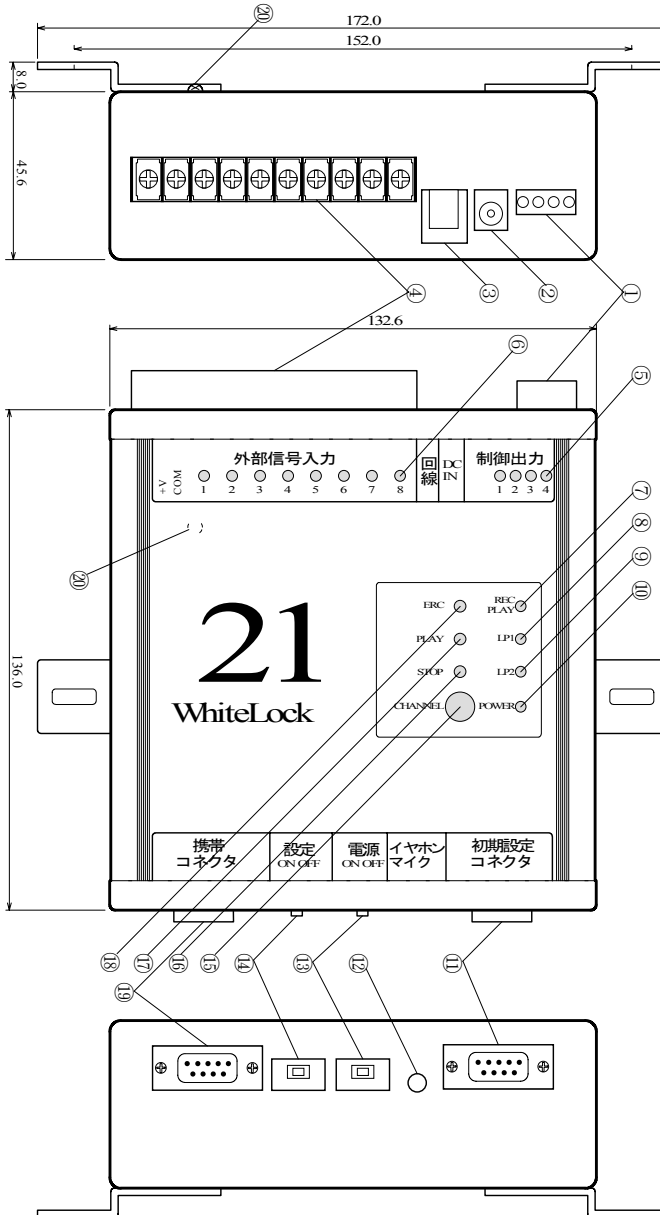
ピン記号	信号
1	CD
2	RD
3	TD
4	DTR
5	GND
6	DSR
7	RTS
8	CTS
9	RI

ピン番号は製品本体側を示す



設定に使用するパソコンが、このコネクタを装備していない機種の場合（PC-9800シリーズ等）は、別途変換コネクタ（D-SUB25 ピン → D-SUB9 ピン）をお買い求め下さい。

外形図



1	制御出力コネクタ	11	設定用シリアルコネクタ
2	電源直流入力コネクタ	12	録音再生用イヤホンマイクジャック
3	電話回線モジュージャック	13	電源スイッチ
4	外部信号入力端子	14	設定モード切替スイッチ
5	制御出力モニタランプ	15	録音再生・チャンネル切替スイッチ
6	外部信号入力モニタランプ	16	録音再生・停止押しボタンスイッチ
7	録音再生モニタランプ	17	録音再生・再生押しボタンスイッチ
8	動作モニタランプ1	18	録音再生・録音押しボタンスイッチ
9	動作モニタランプ2	19	メンテナンスコネクタ
10	電源ランプ	20	FG端子

付録

文字コード

・フリーメッセージ

		2桁目									
1桁目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
	1	ア	イ	ウ	エ	オ	A	B	C	D	E
	2	カ	キ	ク	ケ	コ	F	G	H	I	J
	3	サ	シ	ス	セ	ソ	K	L	M	N	O
	4	タ	チ	ツ	テ	ト	P	Q	R	S	T
	5	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	U	V	W	X	Y
	6	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	Z	?	!	-	/
	7	マ	ミ	ム	メ	モ	¥	&	⌚	☎	📠
	8	ヤ	(	⌚	)	ヨ	*	#		♥	
	9	ラ	リ	ル	レ	ロ	1	2	3	4	5
	0	ワ	ヲ	ン	°		6	7	8	9	0

半角大文字英字、大文字カタカナ、数字、一部の記号が使えます。「*2*2」に続いて1桁目、2桁目をダイヤルする文字です。ショートメールで78(時計)、70(コップ)の文字は使用できません。

パソコンで直接入力できない文字を使用する場合、78(時計)は「⌚」、79(電話)は「☎」、70(コップ)は「📠」、89(ハート)は「♥」を入力してください。

・拡張フリーメッセージ

		2桁目									
1桁目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
	1	ア	イ	ウ	エ	オ	a	b	c	d	e
	2						f	g	h	i	j
	3						k	l	m	n	o
	4	-	`	ッ	`	。o	p	q	r	s	t
	5	<	=	>	「	」	u	v	w	x	y
	6	[	+	]	-	~	z	?	!	-	/
	7	{		}	・	^	\$	%	@	.	,
	8	ヤ		ユ		ヨ	'	”		:	;
	9						1	2	3	4	5
	0						6	7	8	9	0

フリーメッセージで使用できない半角小文字英字、小文字カタカナ、一部の記号が使えます。「*3*3」に続いて1桁目、2桁目をダイヤルする文字です。Cメールで使用できる文字コードです。

・区点コード

全角文字です。「#」に続いて4桁の数字をダイヤルする文字です。使用できる文字は携帯電話の取扱説明書の区点コード一覧を参照してください。

White Lock 21

本書 Ver 1.0

取扱説明書

初版作成 2002年 3月